

# 次期京都市基本計画検討資料

## 政策分野 <生涯学習>

### 1 序

- 1-1 京都市基本構想における関連記述 1P
- 1-2 現行京都市基本計画に掲げた政策 2P
- 1-3 これまでの主な取組 3P

### 2 次期京都市基本計画策定に向けた論点 7P

- 2-1 論点1 現状と課題 8P
- 2-2 論点2 政策の基本方向 11P
- 2-3 論点3 市民と行政の役割分担と共汗 13P
- 2-4 論点4 10年後に目指すべき姿 16P

### 3 参考資料

- 3-1 現状分析関連データ 21P
  - ・客観データ
  - ・市民の声
  - ・各区基本計画策定に当たって出された課題
- 3-2 主な分野別計画の概要 63P
- 3-3 融合委員会ワークショップ結果 65P



# 1 序

## 1-1 京都市基本構想における関連記述

### ～魅力あふれるまち～

市民文化の成熟にはまた、まちづくりを主体的に担っていくようなひとづくりが不可欠であり、とりわけ子育てや教育の役割が大きい。また、生涯にわたって、みずからを磨き、高める機会に恵まれていることも必要である。ここで大切なのは、京都市民が時間をかけて培ってきたいくつかの卓越した能力を改めて思い起こし、次の時代に向けてさらに磨き上げていくことである。それは、たとえば、本物を見抜く批評眼（「めきき」の文化）であり、ものづくりの精密な技巧（「たくみ」の文化）であり、冒険的な精神（「こころみ」の文化）であり、創造的な学習・研究への意欲（「きわめ」の文化）であり、来訪者を温かく迎える心（「もてなし」の文化）であり、節度のある生活態度（「しまつ」の文化）である。



## 1-2 現行京都市基本計画に掲げた政策

### ～生涯にわたってみずからを磨き高める～

京都は神社仏閣，大学・研究機関，匠（たくみ）の技や伝統文化・伝統芸能など豊富な学習資源に恵まれており，この特性を生かし，市民はもとより国内外の生涯学習ニーズにもこたえる創造的な学びの機会・場・しくみづくりを進める。

また，地蔵盆をはじめ京都ならではの行催事の活用などにより，地域のなかで世代を越えてともに楽しみながら学び，学習の成果を分かち合い，学習の輪を広げる。



## 1-3 これまでの主な取組

- ① 「大人として子どもたちのために何ができるか」を考えて行動する「人づくり21世紀委員会」の活動（H21現在101団体が加盟）

平成10年度～

人づくり21世紀委員会



▲中学生とのふれあいトーク

- ② 学校休業日に、まち全体で子どもたちに多様な学習の場を提供する「みやこ子ども土曜塾」を推進

平成16年度～

■みやこ子ども土曜塾



▲お囃子体験



- ③ 保育・教育・医療・福祉の専門家が子育てをバックアップ。約700名の市民ボランティアと共に運営する子育て支援総合センター「こどもみらい館」

平成11年度～

子育て支援総合センター「こどもみらい館」



▲元気ランド

- ④ 学校の余裕教室を改修・整備する「学校ふれあいサロン事業」など、学校を拠点とした生涯学習の推進と地域コミュニティの活性化

学校を拠点とした生涯学習の推進





⑤ 京都精華大学との連携により，元龍池小学校を活用し「京都国際マンガミュージアム」を開設

平成18年度～

京都国際マンガミュージアム



▲マンガの壁

⑥ 市立図書館全館の図書情報のネットワーク化やインターネットでの貸出予約など図書館サービスを向上

市立図書館サービス向上



▲右京中央図書館「電子メディアゾーン」



## ◆京都未来まちづくりプランに掲載の関連事業

- ・子どもを共に育む親支援プログラムの策定・実践
- ・OK企業認定システムの推進
- ・放課後まなび教室の推進
- ・図書館返却ポストの地下鉄駅等への設置
- ・学校図書館と地域図書館の連携
- ・デジタルミュージアムの民間との共同による開設
- ・「まちかど博物館」等の設置拡大
- ・博物館ふれあいボランティア養成講座
- ・第9回国際マンガサミット京都大会の開催とマンガを活用した情報発信
- ・源氏物語千年紀記念「古典文化継承事業」
- ・京都ならではの芸術系大学コンソーシアムの設立・展開
- ・市立芸術大学サテライト施設の運営
- ・音楽高校ルネサンス事業（京都市立音楽高等学校移転整備事業）
- ・「子どもを共に育む京都市民憲章」を推進する条例の制定
- ・「京都市子ども読書活動推進計画」次期計画の策定
- ・京 環境・科学センター基本構想の策定



## 2 次期京都市基本計画策定に向けた論点

### 論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス（追い風）は？放置できない問題（向かい風）は？
- ◇ 活用できる資源（強み）は？克服すべきもの（課題）は？

### 論点2 政策の基本方向

- ◇ 今後10年間の基本的考え，価値観は？

### 論点3 市民と行政の役割分担と共汗

- ◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

### 論点4 10年後に目指すべき姿

- ◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状況を測る指標・目標値は？



## 2-1

### 論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス（追い風）は？放置できない問題（向かい風）は？
- ◇ 活用できる資源（強み）は？克服すべきもの（課題）は？



# <現状分析>

活かすべきチャンス（機会）	放置できない問題（脅威）
<p>【学習資源の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○大学，博物館，文化財，伝統産業から先端企業などが集積する京都の都市特性</li><li>○NPOやボランティア団体など民間の生涯学習関係団体による多様な学習機会</li></ul> <p>【人の繋がり】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学校を拠点とした地域活動</li><li>○PTAが主体となった様々な取組の広がり</li><li>○おやじの会の充実・拡大</li><li>○人づくり21世紀委員会の活動</li><li>○女性会をはじめとする地域諸団体の活動</li><li>○多くの市民ボランティア活動</li></ul>	<p>【物質文明の行き詰まり】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○新たな現代的課題（環境問題，インターネット・携帯電話の弊害，メディア依存など）</li><li>○実体験を伴わないバーチャルな世界の氾濫</li><li>○自然や生命を大切にする心・精神文化の希薄化</li><li>○社会全体のモラルの低下</li><li>○夜型生活への移行，生活リズムの乱れ</li></ul> <p>【家庭の危機】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○子育ての不安感や負担感の増大，子育ての孤立化の進行</li><li>○子どもに対する虐待</li></ul> <p>【地域力の低下】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○地域コミュニティの希薄化</li></ul>



活用できる資源（強み）	克服すべきもの（弱み）
<p>【意識の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「子どもを共に育む京都市民憲章」の制定</li></ul> <p>【学習機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「みやこ子ども土曜塾」の充実</li><li>○全小学校での「放課後まなび教室」実施</li><li>○「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定」の定着</li><li>○京都国際マンガミュージアム、学校歴史博物館、図書館やアスニー等における学びの機会の増加</li><li>○民間の生涯学習関係団体の増加</li><li>○図書館のインターネットでの貸出予約</li><li>○京都市内博物館施設連絡協議会加盟施設の増加</li><li>○「子どもを共に育む親支援プログラム」の策定・実践</li></ul>	<p>【生涯学習の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○市民の多様な学習需要の適切な把握と、それに応じた学習機会の提供</li><li>○情報通信技術を活用した学習機会の充実</li><li>○より多くの市民の生涯学習の場への参加促進</li></ul> <p>【社会全体での取組】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○親に対する子育て支援（親支援）の充実</li><li>○父親の子育て参加に向けた企業等での取組</li><li>○仕事と生活の調和（ワークライフバランス）</li><li>○産・学・官・市民の役割分担の明確化と協働</li><li>○生涯学習を通じた地域コミュニティの活性化</li><li>○若者の社会参加</li></ul>



## 2-2

### 論点2 政策の基本方向

- ◇ 今後10年間の基本的考え，価値観は？

<第1回部会での意見>

- ・ 自分で道を切り拓く，夢のあるひとづくり



## <現在の方向性>

○共に学び，共に汗して進める生涯学習のまちづくりの推進

～「グッとくる」まち 京都をつくろう～

- ・まち全体が学びの場～京都ならではの「地域力」～
  - ・学びの還元～京都ならではの「人間力」を結集
- ・次世代育成～子どもを共に育む機運の向上～



## 2-3

### 論点3 市民と行政の役割分担と共汗

◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

<第1回部会での意見>

- ・ 子ども世代が自然に地域に入れる土台づくり



# <市民と行政の共汗事例>

## <本市の事例>

### ■京都市生涯学習市民フォーラム

市内の生涯学習に関わる多様な諸団体等からなるネットワーク組織「京都市生涯学習市民フォーラム」を平成6年1月に設置。（現在172団体が加盟，会長は堀場雅夫 堀場製作所最高顧問）

京都市生涯学習行政推進会議との連携・協力の下に，市民の持つ活力と英知を結集して，市民感覚に根差した生涯学習のまちづくりを推進。

一般市民の参加の下での講演会やシンポジウムの開催や，インターネット「京まなびネット」での講座情報等の発信など，様々な取組を展開。



▲15周年シンポジウム「未来につなぐ京都のこころ」



▲総会で生涯学習推進者を表彰



## ■博物館ふれあいボランティア～共汗サポーター～の養成

京都市内博物館施設連絡協議会との共催で、市内の数ある博物館や美術館において、展示物の説明や監視など、博物館の業務をサポートしながら、博物館施設を自らの学びの場として活動するボランティアを養成。



▲養成講座



▲博物館での活動



## 2-4

### 論点4 10年後に目指すべき姿

◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？

指標とは・・・

- 10年後の京都の姿を市民と行政が共有するための目じるし
- 市民と行政が共に目指す京都の姿を，言葉や数値で表すもの
- 目標値は，数値で表した指標の10年後に目指すべき水準



## <主な指標例>

### ◆「京都未来まちづくりプラン」で用いている指標

事業名	共汗指標	目標値
子どもを共に育む親支援プログラムの策定・実践	プログラムの活用数（プログラムを活用した事業数）	300回 （23年度）
OK 企業認定システムの推進	OK 企業認定企業数	1000社 （23年度）
放課後まなび教室の推進	放課後まなび教室実施校区の割合	100% （21年度）
図書館返却ポストの地下鉄駅等への設置	図書館返却ポストの設置箇所数	2箇所 （21年度）
学校図書館と地域図書館の連携	学校等への団体貸出冊数	20,000冊 （23年度）
まちかど博物館等の設置拡大	博物館数	200館 （23年度）
博物館ふれあいボランティア養成講座	博物館ふれあいボランティア人数	300人 （23年度）
源氏物語千年紀記念「古典文化継承事業」	古典の日記念事業参加者数（年間）	300人 （23年度）
京都ならではの芸術系大学コンソーシアムの設立・展開	連携事業等の取組数（各機関が連携して行った事業数）	2件 （23年度）
「京都市子ども読書活動推進計画」次期計画の策定	1年間に100冊以上本を読んだ子どもの人数	20,000人 （23年度）



## ◆政策評価で用いている指標

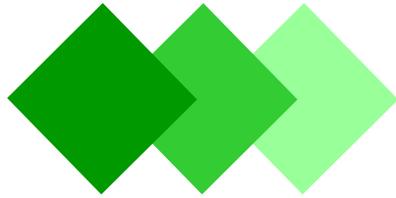
指標	現況値（20年度）
博物館ボランティア年間活動回数	4,391回
京都アスニー・アスニー山科施設入館者数	666,474人
学校歴史博物館入館者数	20,111人
京都市内博物館施設連絡協議会加盟博物館施設及び団体	199団体
夜間開館している図書館数	20
図書館入館者数	4,085,513人
図書貸出冊数	7,170,401冊
青少年科学センター利用者数	154,334人
窓口予約及びインターネット予約の申込冊数	1,143,456冊
コミュニティプラザ施設利用者数	131,408人
ふれあいサロン施設利用者数	323,776人
生涯学習コーディネーター委嘱者数	317人



## ◆1万2千人市民アンケート(※)で提案のあった指標

指標
50才以上の就学率
高齢者の大学就学率
市民1人当たりの教育施設の割合
身近な図書館(室)の数
生涯学習講座数
生涯学習講座数(利用率)
大学の開かれた講座数
大学夏期講習参加人員
誰でも参加できる講演会などの回数
知的水準
図書館数

※1万2千人市民アンケート...次期京都市基本計画の策定に当たって実施したアンケート調査(20年度)



## 3 参考資料

3-1	現状分析関連データ	21P
3-2	主な分野別計画の概要	63P
3-3	融合委員会ワークショップ結果	65P



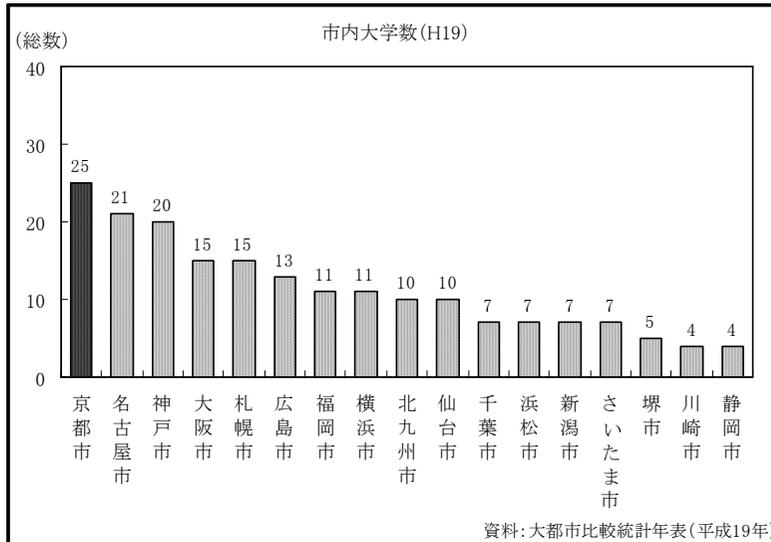
# 3-1 現状分析関連データ

## ◆客観データ

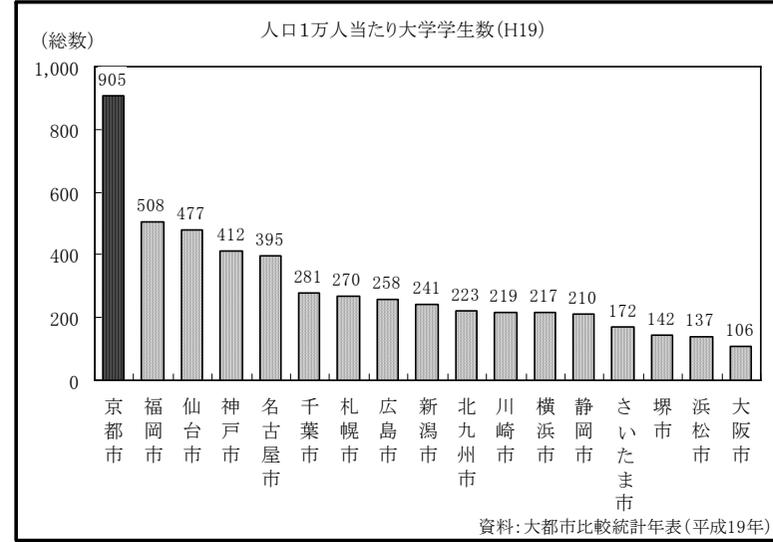
機会

➤ 大学，博物館，文化財，伝統産業から先端企業などが集積する京都の都市特性

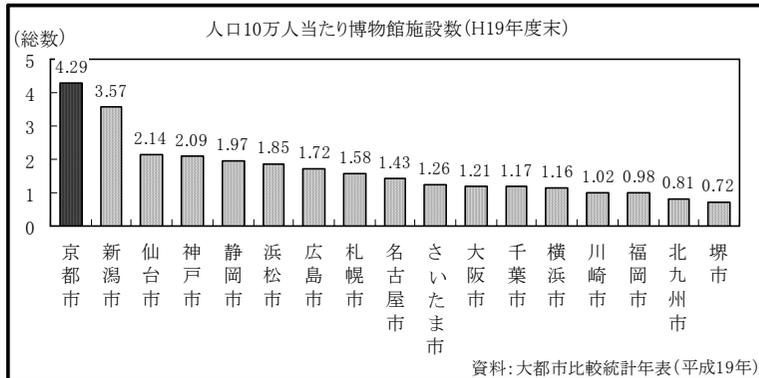
○大学数が政令市で最多



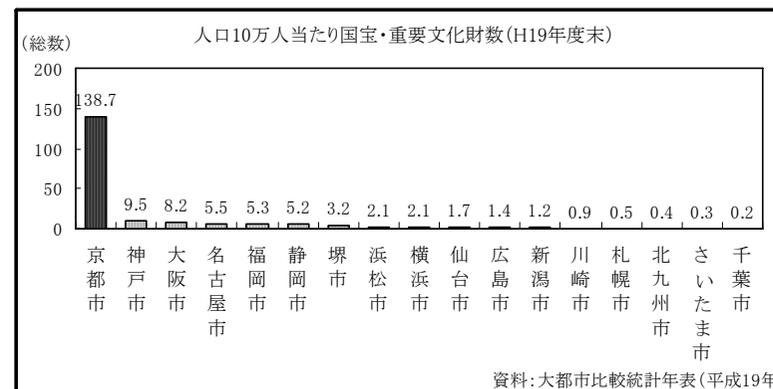
○人口当りの大学学生数が政令市で最多



○人口当りの博物館数が政令市で最多



○人口当りの国宝・重要文化財が政令市で最多





## ◆客観データ

機会

➤ NPOやボランティア団体など民間の生涯学習関係団体による多様な学習機会

○京都市教育委員会後援名義使用許可数（平成20年度・生涯学習関係）

主催者	件数
各種教育機関	170件
生涯学習関係団体・NPO法人等	87件
民間企業	20件
報道機関	9件
自治体・国等	20件
実行委員会	53件
計	359件



## ◆客観データ

機会

### ➤ 学校を拠点とした地域活動

#### ○学校開放施設（コミュニティプラザ・ふれあいサロン）利用状況

	17年度	18年度	19年度	20年度
利用者数	460,677人	473,810人	445,861人	455,184人
利用回数	22,876回	22,175回	20,443回	21,048回

※学校の余裕教室等を生涯学習活動に利用できる施設に改修・整備し、地域の身近な生涯学習の場として地域住民に開放



## ◆客観データ

機会

### ➤ P T Aが主体となった様々な取組の広がり

#### ○主な取組

- ・市P連人権啓発活動  
憲法月間街頭啓発パレード，人権月間街頭啓発活動
- ・京都市P T Aフェスティバル
- ・京都市P T A連絡協議会研修会
- ・京都市教育委員会との懇談会
- ・京都市P T Aしんぶんの発行
- ・メール発信機能を持つP T Aホームページ
- ・メディアによる悪影響から子どもたちを守るための取組  
携帯電話のフィルタリング義務化の署名運動  
ノーテレビ・ノーゲームデーの取組
- ・第60回日本P T A全国研究大会京都大会開催（24年8月）
- ・各種審議会等への参画

#### ○活動実績等

	18年度	19年度	20年度
PTAホームページメール配信登録件数	13,500件	17,415件	24,831件
研修事業参加者数	8,940人	9,015人	9,020人
PTAフェスティバル参加者数	23,000人	20,000人	23,000人



## ◆客観データ

機会

### ➤ おやじの会の充実・拡大

#### ○実施校・園数（平成20年度実績）

総数	内 訳			
	小学校	中学校	支援学校	幼稚園
178	154	12	3	9

#### ○活動例

- ・親子体験活動...料理教室，木工教室，陶芸教室，科学教室，学校キャンプ，スポーツ大会，校内美化，ビオトープ作り，救急救命講習
- ・話し合い活動...おやじの座談会，家庭教育に関する講演会，子育てふれあいトーク他
- ・地域での活動...子どもの見守り活動，夜間パトロール，野外体験活動，地域ボランティア，地域のまつり等への参画

#### ○京都「おやじの会」連絡会による全市的な取組実績

- ・おやじEXPOの開催
- ・「早く帰ろう！デー」の推進
- ・「おはよう・おやすみ・いただきます」キャンペーンの実施
- ・「OK企業」認定制度の創設



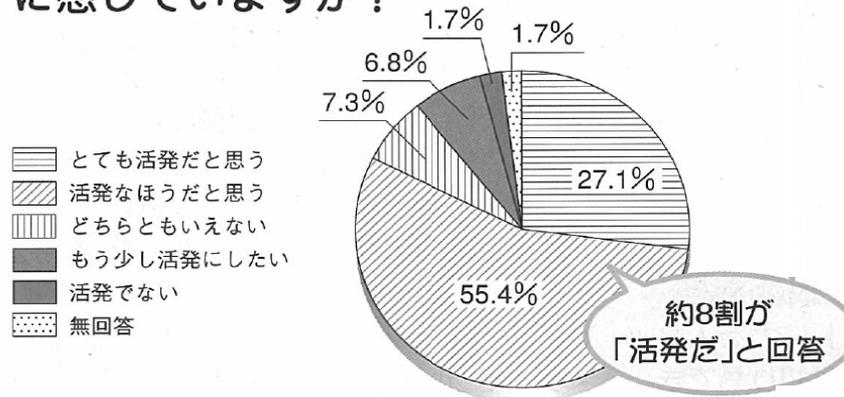


## ◆客観データ

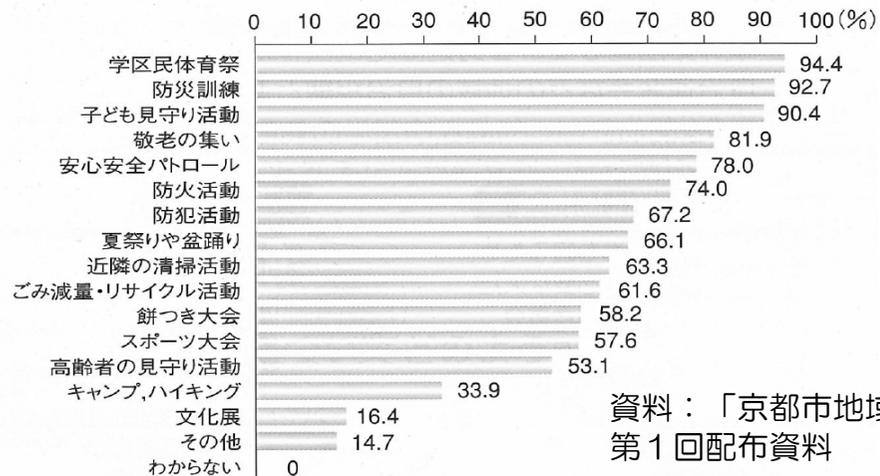
機会

### ➤ 女性会をはじめとする地域諸団体の活動

●あなたの学区の活動についてどのように感じていますか？



●あなたの学区内で行われている活動は何ですか？



資料：「京都市地域コミュニティ活性化に関する懇話会」  
第1回配布資料



## ◆客観データ

機会

### ➤ 女性会をはじめとする地域諸団体の活動

#### ○地域の団体等一覧

名称	所管	身分	任期	構成員数	選出方法・参加資格	報酬、助成等	平成20年10月現在 主な業務・事業の内容
市政協力委員 (同連絡協議会)	文化市民局	非常勤特別職公務員	1年	約8,200名	担当区域からの推薦	委託料	市広報物の配布・掲示、 市民要望の取次ぎ等
日赤京都府支部 地区奉仕団	各区・支所 (文化市民局)	任意団体	—	約4,200名	地域から選出等	なし	社資の募集、献血
京都府共同募金会 地区分会	各区・支所 (文化市民局)	任意団体	—	約220名	地域から選出等	なし	募金活動
交通安全推進連合会 (異称あり)	各区・支所 (文化市民局)	任意団体	区により 異なる	不詳 (約220団体)	地域から選出等	事業費補助	全国交通安全運動、街 頭啓発、交通安全教室
体育振興会	文化市民局	任意団体	学区により 異なる	全市民	学区により異なる	事業費補助、 委託料	市民スポーツ活動促進、 区民運動会
体育指導委員 (体育指導委員会)	文化市民局	非常勤特別職公務員	2年	約600名	学区体育振興会会長 からの推薦	報酬、事業毎 に費用弁償	市民スポーツの促進、地 域におけるスポーツ指導
民生・児童委員 (同連絡協議会)	厚生労働省 (保健福祉局)	非常勤特別職公務員	3年	約2,700名	学区単位で推薦 (前任者の推薦)	弁償金	福祉関係の相談・援助、 地域福祉ネットワーク
社会福祉協議会	保健福祉局	任意団体	—	不詳 (593団体)	社会福祉事業関係者、 地域から選出等	事業費補助、 委託料	地域福祉活動の組織化、 各種の社会福祉事業
長寿クラブ (老人クラブ)	保健福祉局	任意団体	なし	約65,000名	60歳以上	事業費補助	クラブの振興、高齢者福 祉事業
保健委員 (保健協議会)	保健福祉局 (環境局)	任意団体	概ね1年 (2年)	約7,700名	地域から選出等	協力謝礼	広報物の配布 特定検診の補助
地域献血会	保健福祉局	任意団体	—	不詳 (約211団体)	地域から選出等	事業費補助	地域献血会の実施
消防団員 (消防団)	消防局	非常勤特別職公務員	2年	約4,300名	本人の希望、団員の 勧誘等	費用弁償	平時：訪問指導や巡回 非常時：消火活動等
自主防災会	消防局	任意団体	—	全市民	地域から担当を選出	事業費補助	防災知識の普及、防災訓 練、防災器具等整備
地域女性連合会	教育委員会	任意団体	なし	約50,000名	本人の希望等	委託料	男女共同参画社会の実現、 温もりのある地域づくり等
P T A 連絡協議会	教育委員会	任意団体	なし	約120,000名 (5団体)	保護者、教職員	なし	子どもの健全育成、家庭 の教育機能の向上等
防犯推進委員 (防犯推進連絡協議会)	府警	任意団体	なし	約3,600名	各自治会・前任者の 推薦、本人の希望等	事業費補助	地域による防犯活動
少年補導委員 (少年補導委員会)	府警	任意団体	—	約13,000名	地域から選出等	運営費補助	少年非行防止パト、健全 育成、有害ビラ除去

資料：「京都市地域コミュニティ活性化に関する懇話会」第1回配布資料



## ◆客観データ

機会

### ➤ 多くの市民ボランティア活動

#### ○教育委員会所管の市民ボランティア

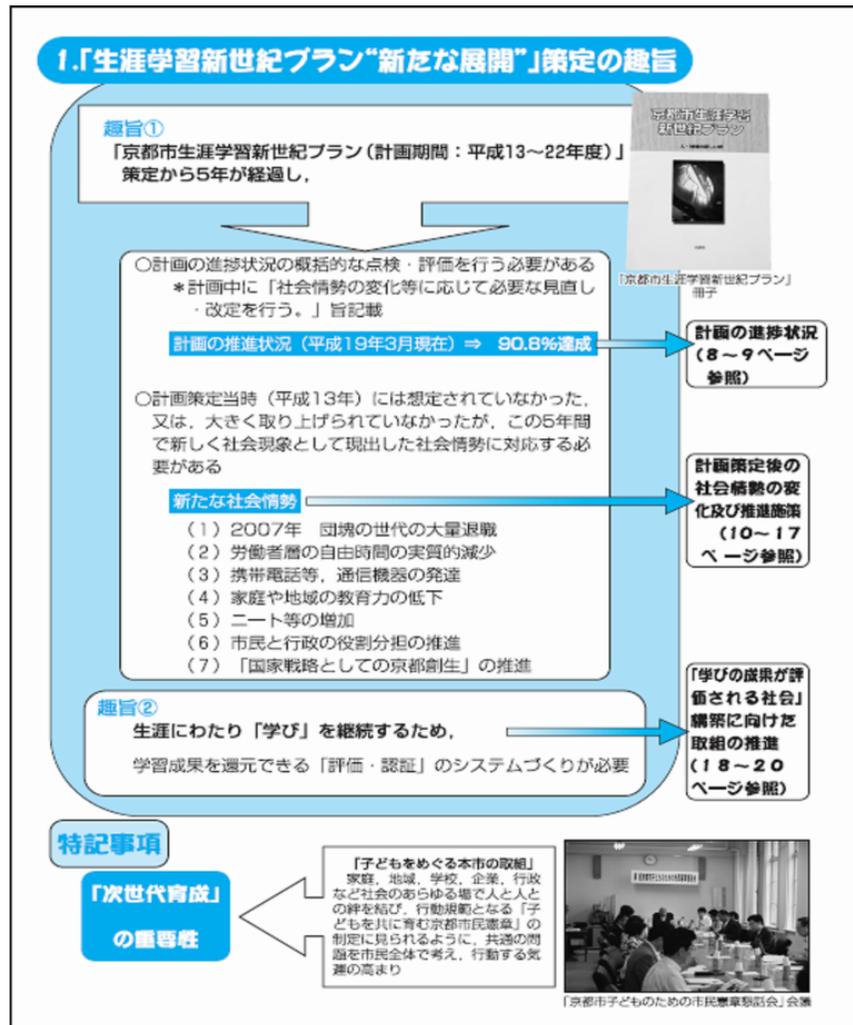
- ・市立学校芝生化維持・管理ボランティア
- ・児童・生徒及び保護者に対する通訳ボランティア
- ・日本語を母語としない児童・生徒に対する日本語指導ボランティア
- ・学校運営協議会
- ・学校運営協議会が募集する子ども見守り隊
- ・学校支援地域本部事業
- ・学校支援ボランティア
- ・土曜学習
- ・学校図書館ボランティア
- ・学生ボランティア
- ・学校安全ボランティア
- ・「放課後まなび教室」学習サポーター・アドバイザー
- ・博物館ふれあいボランティア
- ・親と子のこころの電話相談員
- ・生涯学習コーディネーター
- ・子育てサポーター
- ・子どもを取り巻く緊急課題「語り部」（携帯電話市民インストラクター）
- ・京都市平安京創生館案内ボランティア
- ・こどもみらい館子育て支援ボランティア
- ・図書館ボランティア
- ・対面朗読ボランティア
- ・青少年科学センターボランティア
- ・スチューデントシティ・ファイナンスパーク学習ボランティア
- ・野外活動ボランティア



## ◆客観データ

脅威

- 新たな現代的学習課題（環境問題、インターネット・携帯電話の弊害、メディア依存など）





## ◆客観データ

齊威

### ➤ 実体験を伴わないバーチャルな世界の氾濫

インターネットコンテンツ量の推移(JPDメイン対象)

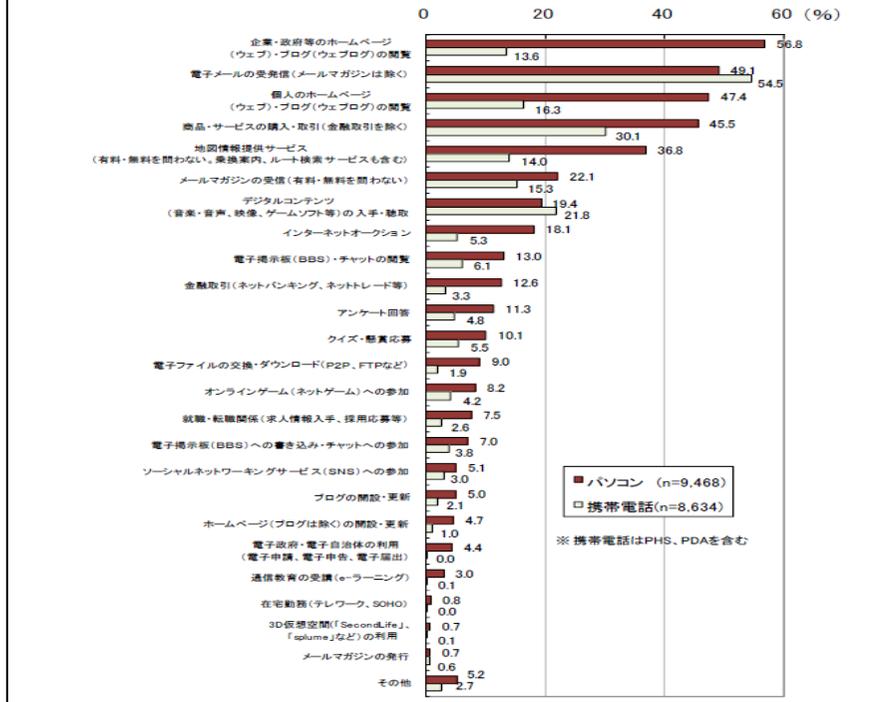
	平成10年2月	11年2月	12年2月	13年2月	14年2月	14年11月	16年2月
総データ量(ギガバイト(GB))	306	1,025	2,214	3,979	5,001	10,150	13,609
総ファイル数(万ファイル)	1,890	5,822	9,626	15,260	17,388	27,421	29,173

【参考】

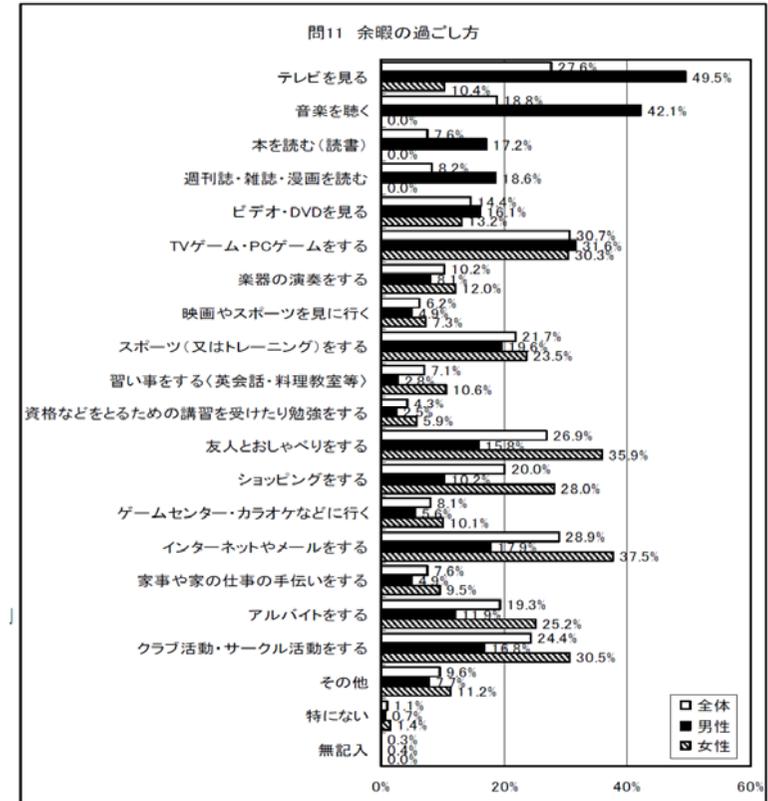
	平成10年2月	11年2月	12年2月	13年2月	14年2月	14年11月	16年2月
サーバ数(台)	36,000	75,000	95,000	152,000	197,000	308,000	425,000
総ページ数(万ページ)	1,023	2,953	4,255	6,107	6,558	7,438	8,590

(出典)総務省情報通信政策研究所「WWWコンテンツ統計調査」

図表 4-19 インターネット利用の目的・用途(パソコンと携帯電話の比較)(平成20年末)



総務省「通信利用動向調査」(平成20年)



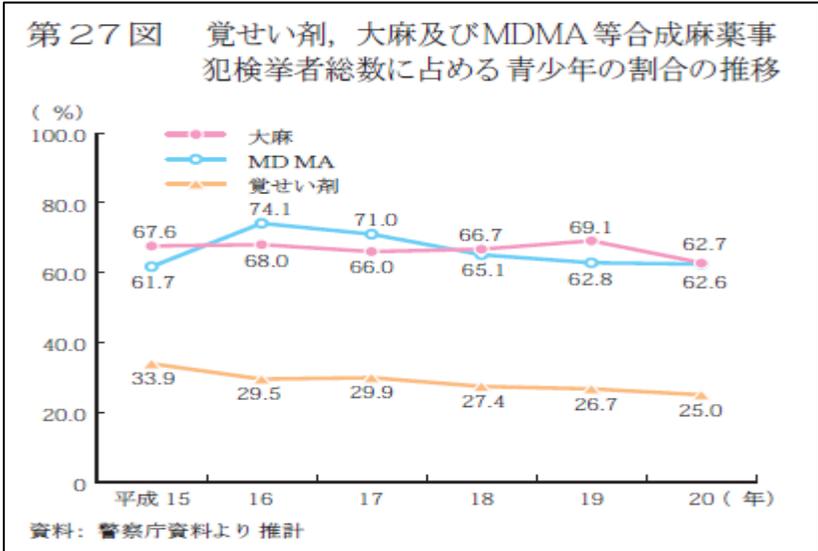
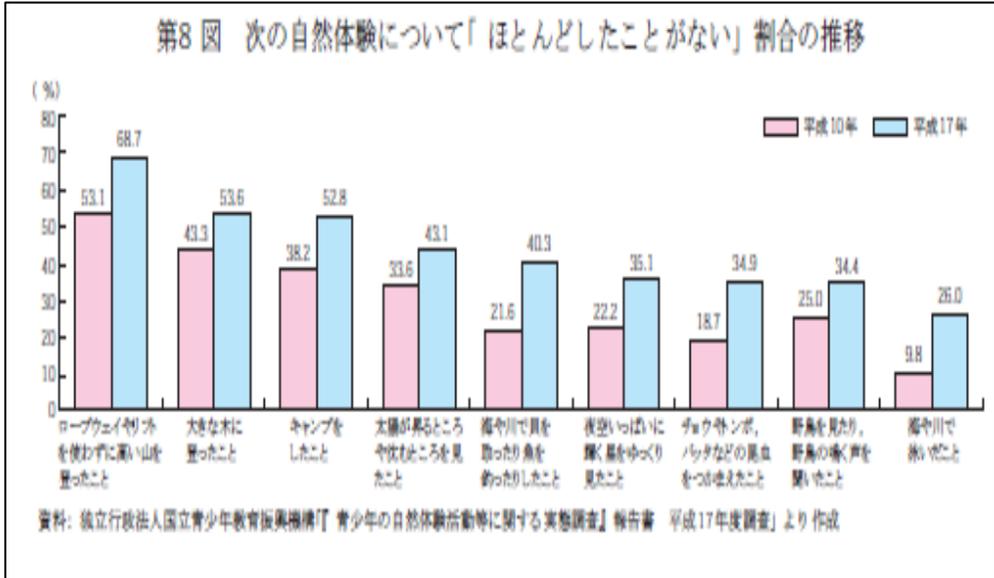
資料：京都市「青少年意識行動調査」(平成17年)



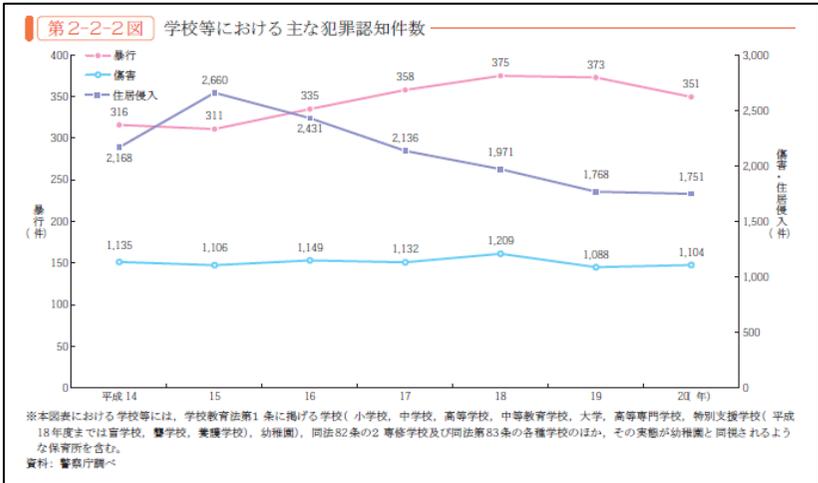
## ◆客観データ

脅威

# ➤ 自然や生命を大切にできる心・精神文化の希薄化



資料：内閣府「青少年白書」（平成21年度版）

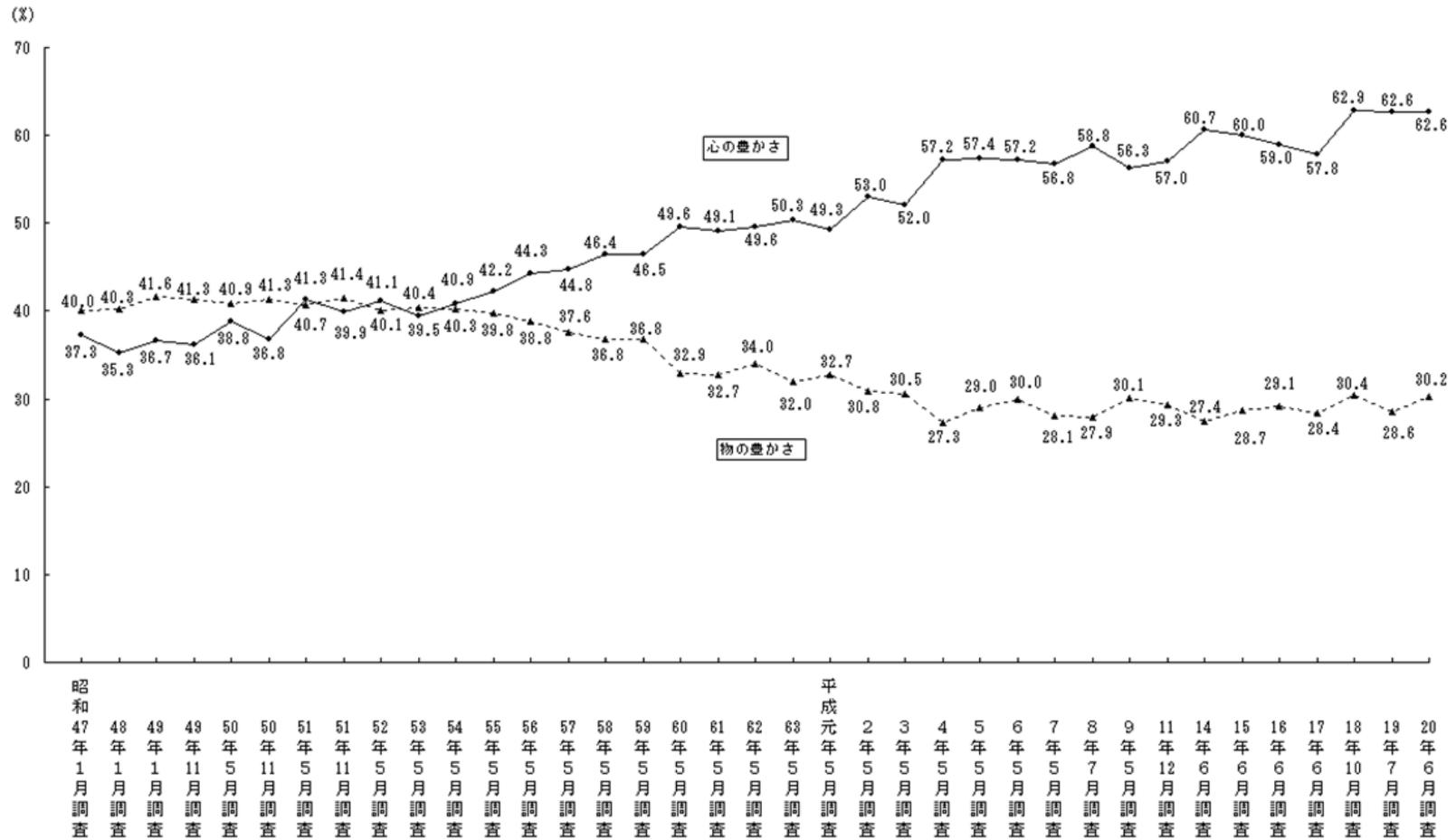




# ◆客観データ

脅威

○これからは心の豊かさか，まだ物の豊かさか



(注) 心の豊かさ → 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」  
 物の豊かさ → 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」

資料：内閣府「国民生活に関する世論調査」（平成20年6月）



## ◆客観データ

脅威

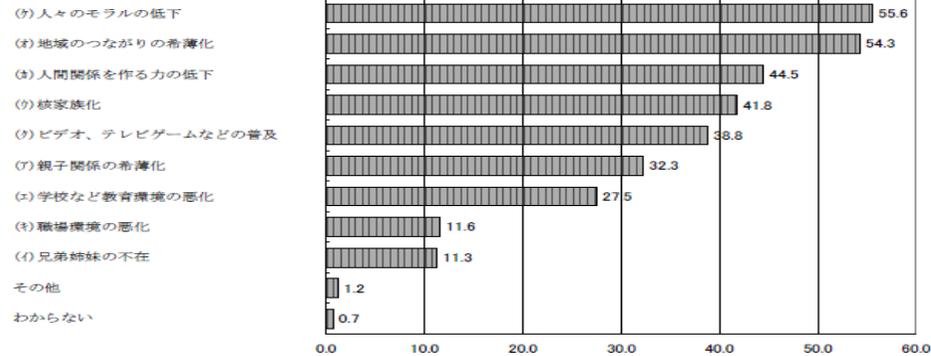
# ➤ 社会全体のモラルの低下

### ○人間関係が難しくなった原因

(1) 人間関係が難しくなった原因  
 (「難しくなったと感じる」と答えた者 (1,364人)) (複数回答, 上位5項目)

平成16年6月

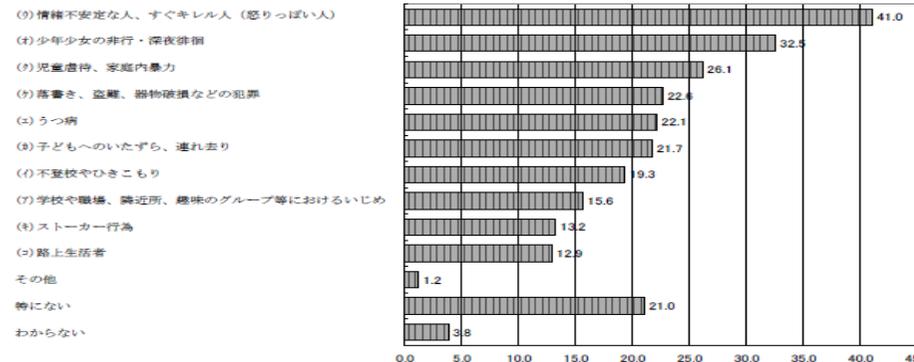
- ・人々のモラルの低下 55.6%
- ・地域のつながりの希薄化 54.3%
- ・人間関係を作る力の低下 44.5%
- ・核家族化 41.8%
- ・ビデオ、テレビゲームなどの普及 38.8%



### ○身の回りで増えたこと

3 身の回りで増えたこと (複数回答, 上位3項目)  
 社会の安全や安心にとって懸念されることで、最近、あなたの身近で以前に比べて増えたと感じるものは何か

- ・情緒不安定な人、すぐキレル人 (怒りっぽい人) 41.0%
- ・少年少女の非行・深夜徘徊 32.5%
- ・児童虐待、家庭内暴力 26.1%



資料：内閣府「安全・安心に関する特別世論調査」(平成16年)

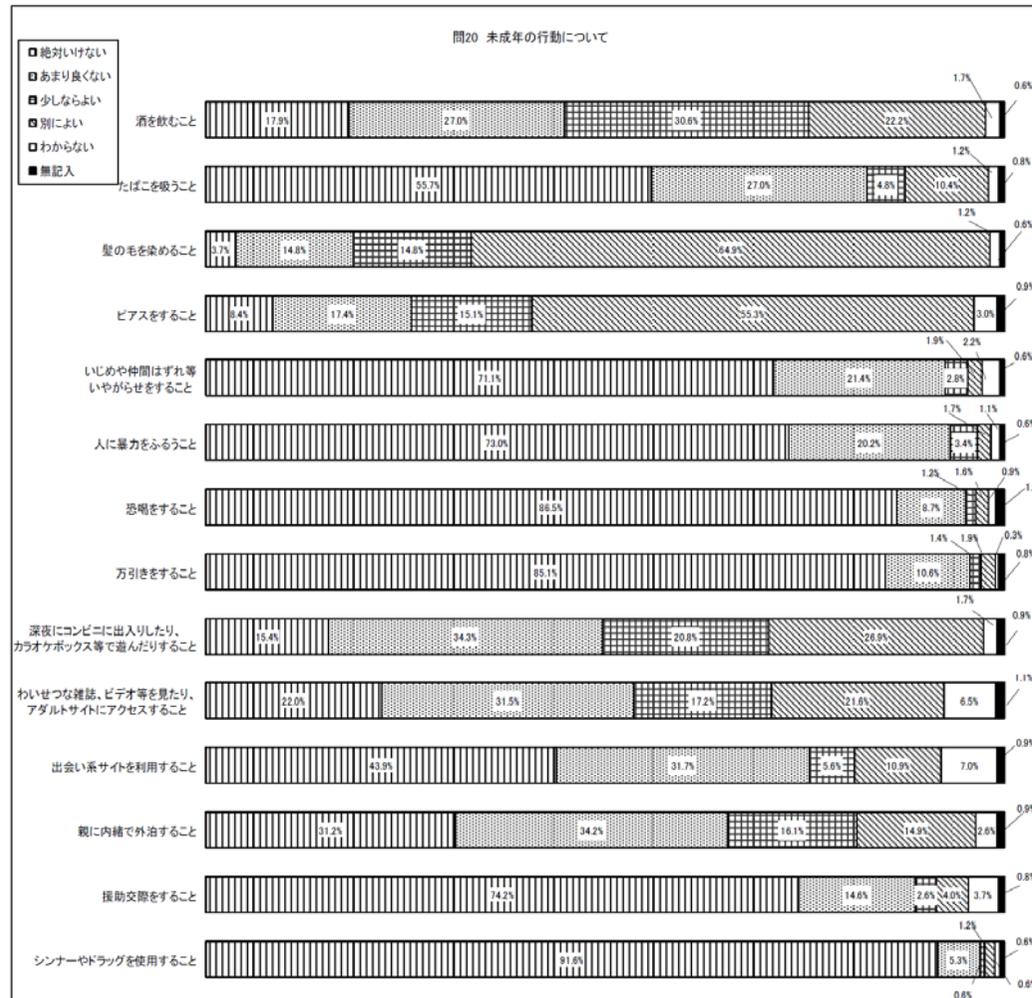


## ◆客観データ

脅威

# ➤ 社会全体のモラルの低下

## ○未成年の行動について



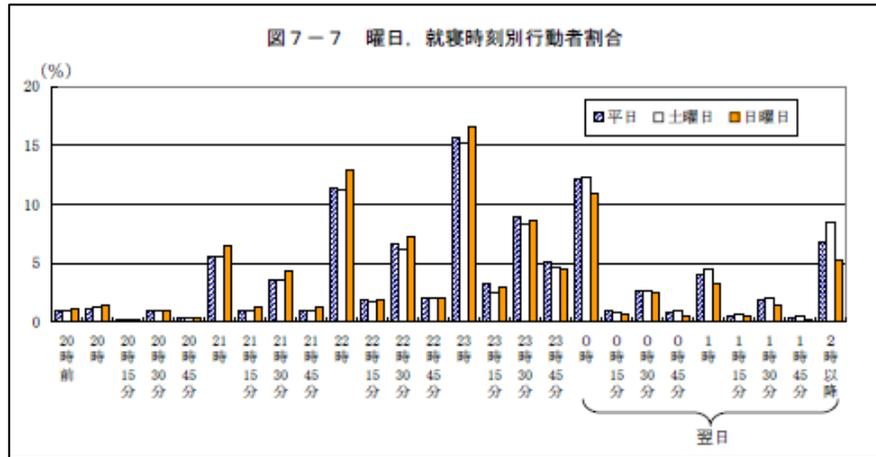
資料：京都市「青少年意識行動調査」（平成17年）



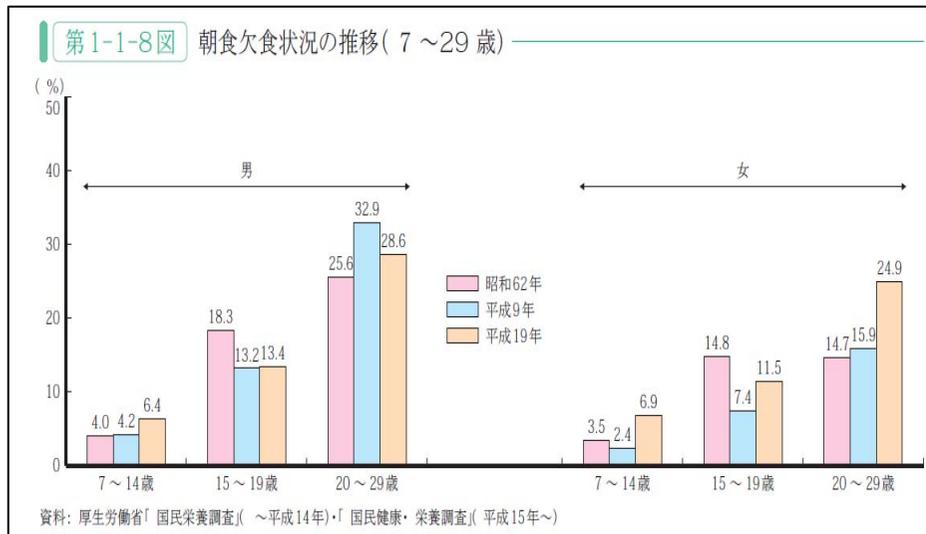
## ◆客観データ

齋威

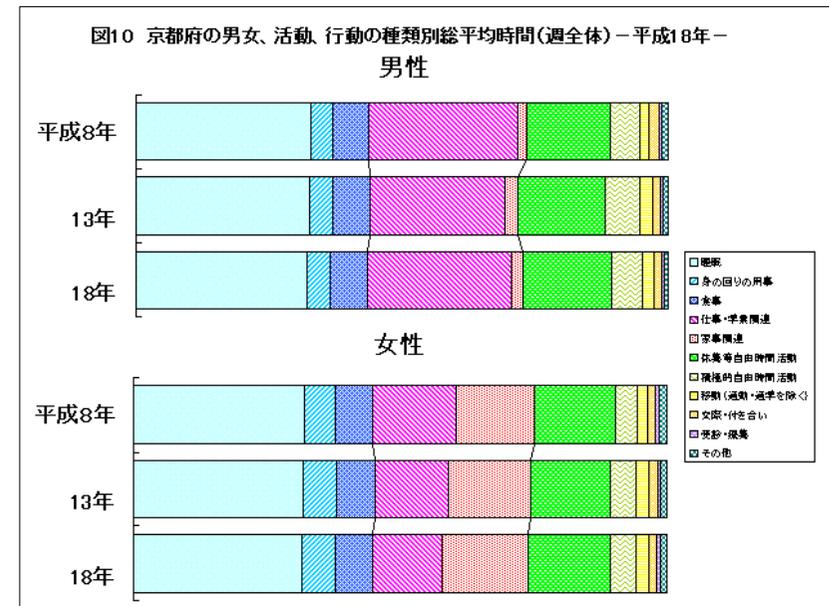
### ➤ 夜型生活への移行，生活リズムの乱れ



資料：総務省「社会生活基本調査」(平成18年)



資料：厚生労働省「国民栄養調査」(～平成14年)・「国民健康・栄養調査」(平成15年～)



資料：府調査統計課「社会生活基本調査」集計(平成18年)

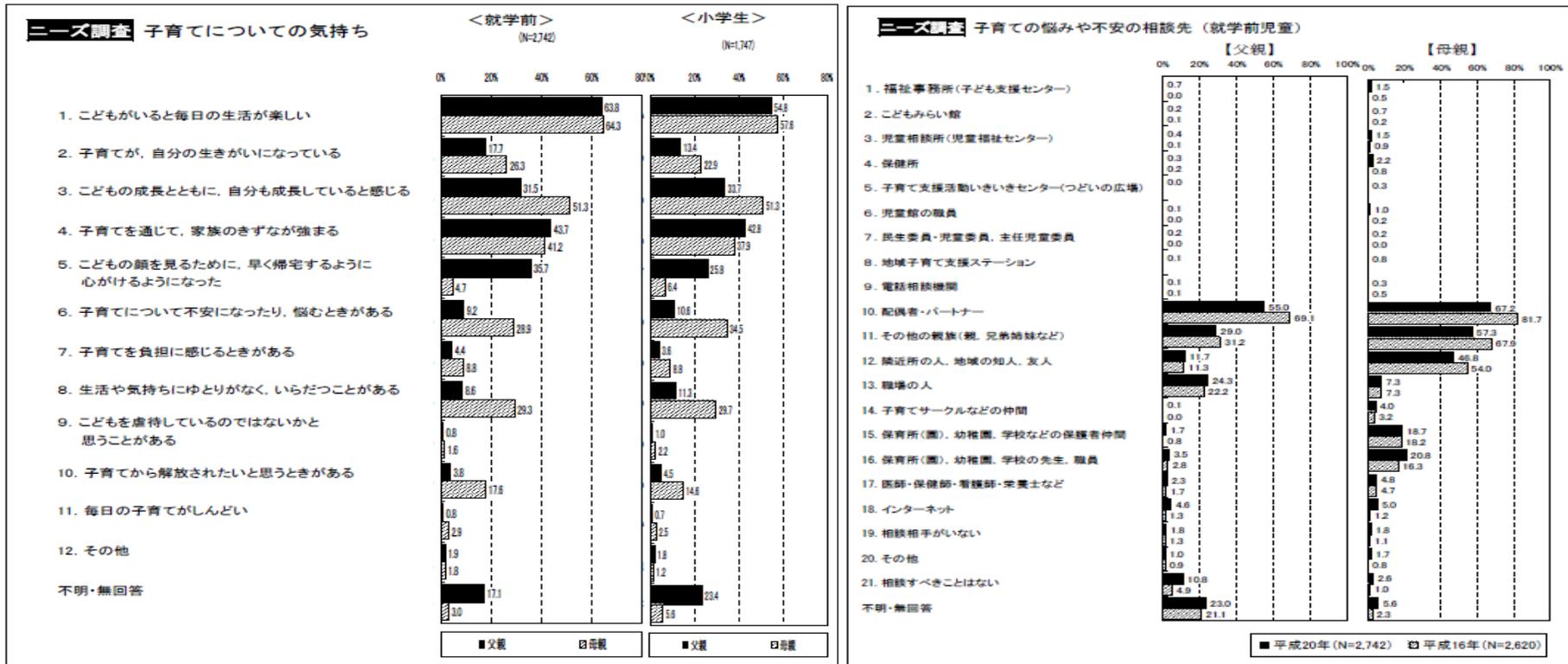
資料：内閣府「青少年白書」(平成21年度版)



## ◆客観データ

脅威

➤ 子育ての不安感や負担感の増大，子育ての孤立化の進行



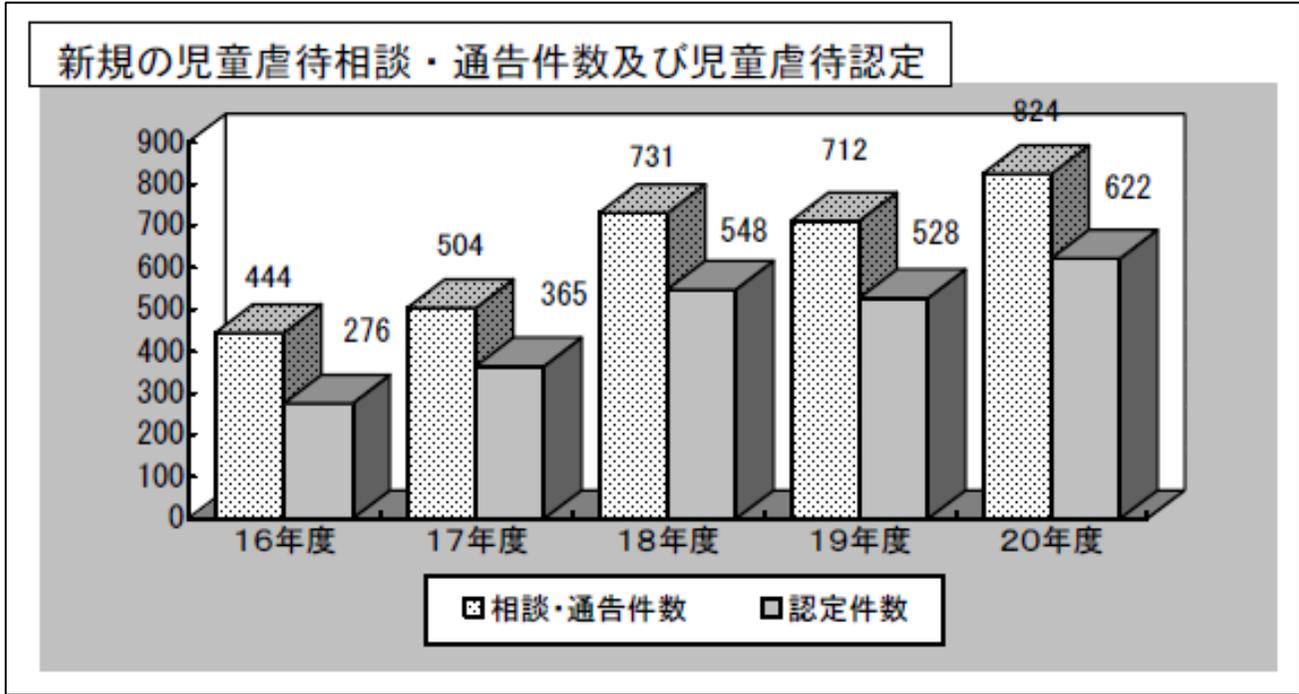
資料：市保健福祉局「京都市子育て支援に関する市民ニーズ調査」（平成20年）



## ◆客観データ

脅威

### ➤ 子どもに対する虐待





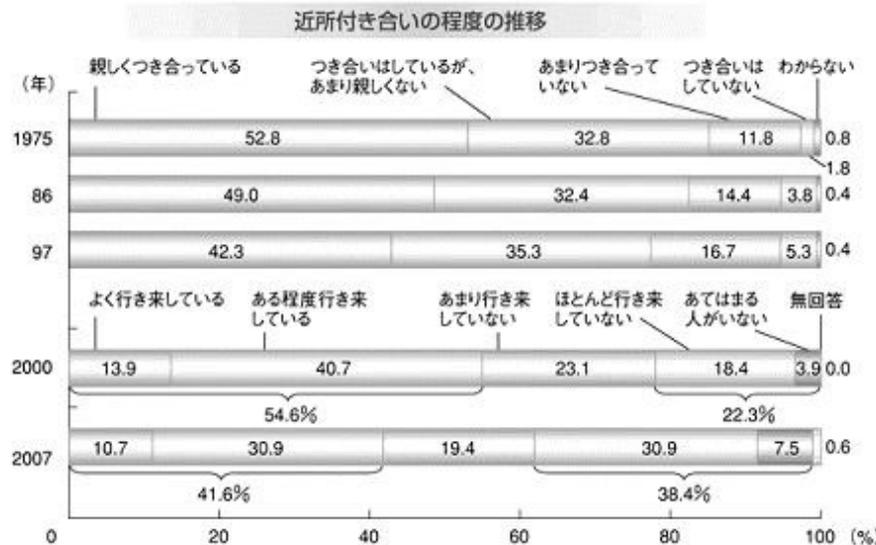
## ◆客観データ

脅威

### ➤ 地域コミュニティの希薄化

#### ○近所付き合いの程度の推移

近隣関係は希薄になっている



(備考) 1. 内閣府「社会意識に関する世論調査」(1975、86、97年)により作成および「国民生活選好度調査」(2000、2007年)により特別集計。  
 2. 回答者は、1975、86、97年は全国の20歳以上の者。2000年は、全国の20歳以上70歳未満の男女。2007年は、全国の20歳以上80歳未満の男女。



資料：内閣府「平成19年度版国民生活白書」

資料：内閣府「平成19年度版国民生活白書」



## ◆客観データ

強み

### ➤ 「子どもを共に育む京都市民憲章」の制定

# 子どもを共に育む京都市民憲章

子どもたちの今と未来のため、人と人の絆を結び、共に生きるうえでの行動規範としての市民憲章



わたくしたちのまち京都には、子どもを社会の宝として、愛し、慈しみ、将来を託してきた、人づくりの伝統があります。

そうした伝統を受け継ぎ、人と自然が調和し、命のつながりを大切にして、子どもを健やかに心豊かに育む社会を築くことは、京都市民の使命です。

大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切にして、子どもを見守り、褒め、時には叱り、共に成長していくことが求められます。そして、子どもを取り巻く状況に常に見つめ、命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で臨む必要があります。

わたくしたちは、子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、共に生きるうえでの行動規範として市民憲章を定めます。

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。

平成19年2月5日(平成二十二年議会の四)制定  
同年3月15日京都市議会が「子どもを共に育む京都市民憲章」を議案付議に付議する決議





## ◆客観データ

**強み**

### ➤ 「みやこ子ども土曜塾」の充実

#### ○企画数・参加数

	17年度	18年度	19年度	20年度
企画数	3,000企画	3,700企画	4,300企画	5,000企画
参加人数	65,000人	68,000人	82,000人	100,000人

#### <事業概要>

- ・土曜日等の学校休業日において、企業・大学・博物館・NPO法人等の市民ボランティアが子ども向け又は親子向けの学習活動や体験活動等を企画・実施することを促進する。
- ・企画された体験活動等を、「みやこ子ども土曜塾」として情報誌「GoGo土曜塾」（年9回、各号13万部発行）に掲載し、市内小中学生及びその保護者等に配布するとともに、ホームページにより情報発信する。

⇒土曜日等の学校休業日において、子どもたちの豊かな学びと育ちの場が、まち全体で市民ぐるみで創出されることを促進。



## ◆客観データ

**強み**

### ➤ 全小学校での「放課後まなび教室」実施

#### ○実施状況

	19年度	20年度	21年度（見込み）
実施校区	50校区 (約28%)	115校区 (約64%)	179校区 (100%)
登録児童数	1032人	3041人	9500人
登録スタッフ数	720人	1408人	2200人

#### ＜事業概要＞

・放課後に、学校施設を活用し、地域・PTAや学校運営協議会、学生等の参画を得ながら、宿題や読書、予習・復習などによる児童の学習の習慣づけと、安心・安全な居場所の充実を図る。平成21年度からは、全小学校区で全児童を対象として実施予定。

⇒国において創設された「放課後子どもプラン」のうち、文部科学省所管の「放課後子ども教室推進事業」の本市版として「放課後まなび教室」を平成19年度から実施。子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」を提供し、放課後の居場所を充実するとともに、児童館・学童クラブ事業との事業連携・融合を図り、全市的な観点からの放課後対策を推進。



## ◆客観データ

**強み**

➤ 「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定」の定着

### ○平成21年度実施概要

	基礎コース	発展コース	名人コース	名人・大使発表
時 期	21年10月19日～11月8日		22年1月～2月	22年6月～7月
市立小5年生	学校受検, 無料		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発展コースの受検者のみ受検可</li> <li>・通信検定</li> <li>・無料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート選考により優秀者を「名人」に認定</li> <li>・名人の中から「ジュニア京都観光大使」を任命</li> </ul>
市立小6年生		学校受検, 無料		
団体（私学等）	団体受検, 有料（@525円）			
個人（他府県含む）	通信検定, 有料（@630円）			

### ○平成21年度実施結果

基礎コース	発展コース	名人コース
市立校：小学5年生10,910名 私学等：団体受検1校17名 個 人：通信検定7名	市立校：小学6年生11,314名 私学等：団体受検1校3名 個 人：通信検定8名	応募者463名 名人230名



## ◆客観データ

強み

- 京都国際マンガミュージアム，学校歴史博物館，図書館やアスニー等における学びの機会の増加

### ○京都国際マンガミュージアム（H18.11開館）

京都市と京都精華大学の共同事業として，閉校された元龍池小学校の跡地を活用し，我が国初のマンガ文化の総合拠点として整備・開館。研究機能，博物館・図書館機能，生涯学習機能，新産業創出，人材育成機能等を有する



### ○右京中央図書館（H20.6開館）

「IT化時代に対応した環境」と京都に関する多くの資料・情報を収集し提供する「京都大百科辞典的図書館機能」を備えた京都市で最大面積の図書館。



### ○古典の日記念 京都市平安京創生館（H21.11リニューアル）

古典の日を記念して，京都アスニー1階にある平安京創生館の装いを新たにリニューアルオープン。平安京を緻密に復元した模型などを展示



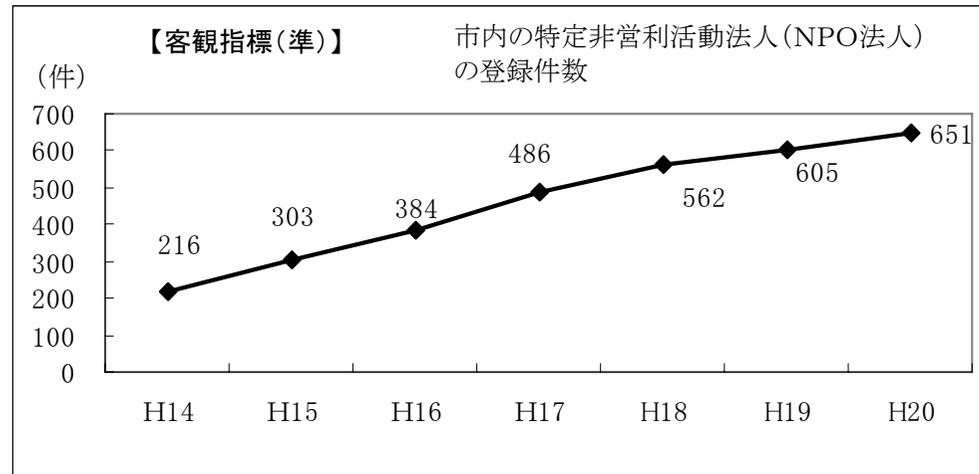


## ◆客観データ

**強み**

### ➤ 民間の生涯学習関係団体の増加

○市内の特定非営利活動法人(NPO法人)の登録件数



資料：京都市政策評価（客観指標基礎データ）

○京都市生涯学習市民フォーラム加盟団体数

18年度	19年度	20年度	21年度
144団体	143団体	155団体	172団体

※市民感覚に根差した生涯学習のまちづくりを推進することを目的とした市内の生涯学習に関わる多様な諸団体等からなるネットワーク組織



## ◆客観データ

**強み**

### ➤ 図書館のインターネットでの貸出予約

○窓口予約及びインターネット予約の申込冊数

18年度	19年度	20年度
715,246冊	851,783冊	1,143,456冊

資料：京都市政策評価（客観指標基礎データ）

- ※平成18年1月から、インターネットによる予約サービスを開始。
- ※平成19年10月から、携帯電話によるインターネット予約の受付を開始。新たに貸出延長・予約変更の受付も開始。
- ※平成20年7月から、CD・DVDの予約を受付。



## ◆客観データ

**強み**

### ➤ 京都市内博物館施設連絡協議会加盟施設の増加

○加盟施設数（賛助団体を含む）

17年度末	18年度末	19年度末	20年度末
174館	178館	183館	196館

※市内の博物館施設からなるネットワーク組織。



## ◆客観データ

強み

### ➤ 「子どもを共に育む親支援プログラム」の策定・実践

#### 趣旨

「子どもを共に育む京都市民憲章」の趣旨を踏まえ、親自身が「親」としての心構えや必要な知識・技術等を子どもの発育・発達段階に応じて学べるとともに、そうした「親の学び」を支援する者を養成する体系的システムを開発し、保育所・幼稚園・学校さらに保健所・児童館等で展開できる仕組みを構築する。

#### 1 プログラムの概要

対象：妊娠期から乳幼児期の親、さらに小・中学生の児童・生徒を持つ親

- (1) 「親育ち」学習プログラム（ワークショップ形式の講座）の策定・実践
- (2) 支援者の養成
- (3) 関係機関の連携による「京都市方式」の子育て支援システムの構築

#### 2 プログラムの策定・実践に向けた組織体制

保健・福祉・教育の各分野の連携による「プロジェクト会議」を設置（平成20年10月）し、幅広い観点から取組内容を検討

- (1) 全体統括部会：プログラム全体の概要と方向性を検討
- (2) 年代別部会：子どもの年齢期ごとに、妊娠期乳幼児期部会と、学童期思春期部会を設置し、プログラムの内容を検討

#### 3 スケジュール

OH21年度 ①「親育ち」学習プログラムの検討・策定

②「親育ち」学習プログラムの試行実施

③リーフレットの作成

④既存の子育て支援施策の各分野の共有、新たなプログラムに向けた仕組みづくり

OH22年度～①支援者養成研修の実施

②リーフレットの配布

③全市レベルでの取組の展開 等



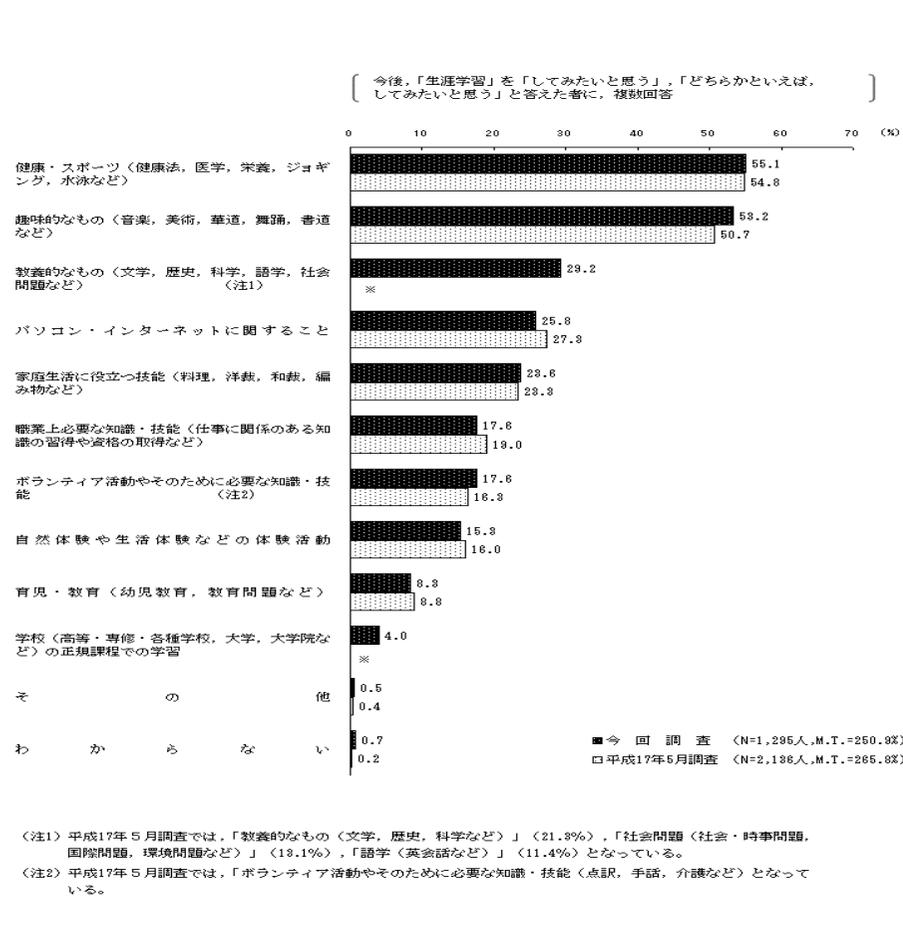
## ◆客観データ

弱み

➤ 市民の学習需要の適切な把握と、それに応じた学習機会の提供

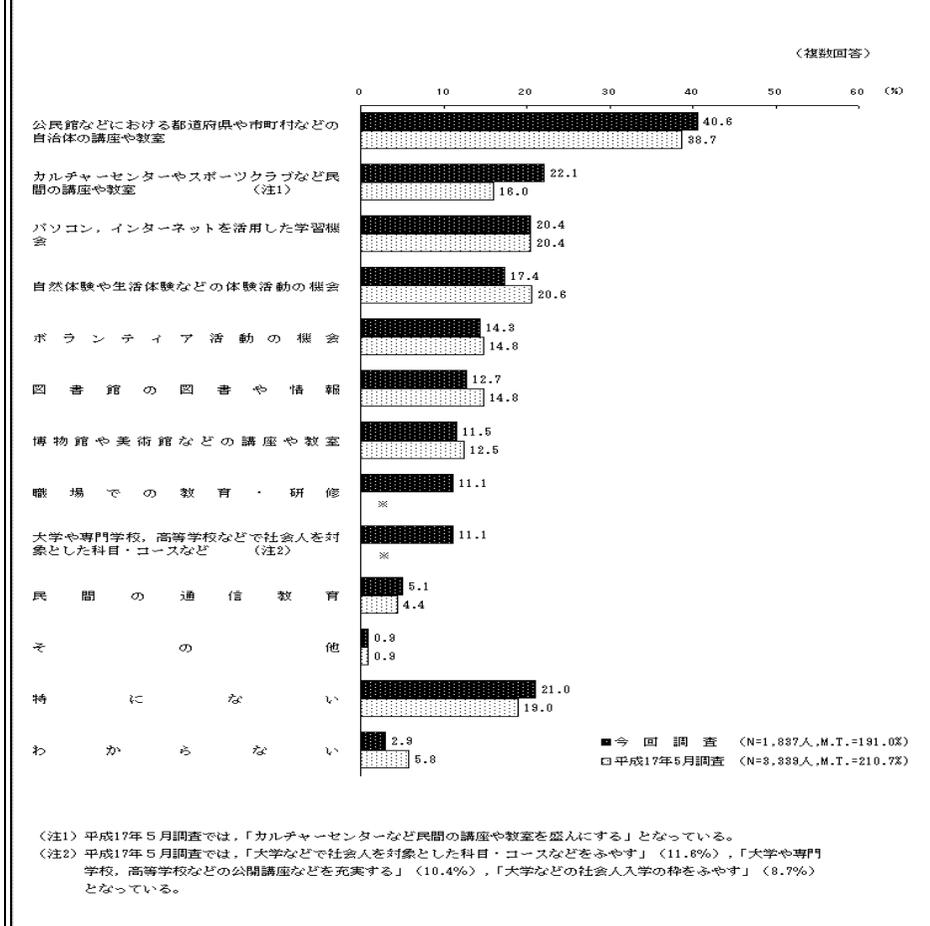
### ○ してみたい生涯学習の内容

図9 してみたい生涯学習の内容



### ○ 生涯学習の機会についての要望

図11 生涯学習の機会についての要望





## ◆客観データ

弱み

### ➤ 情報通信技術を活用した学習機会の充実

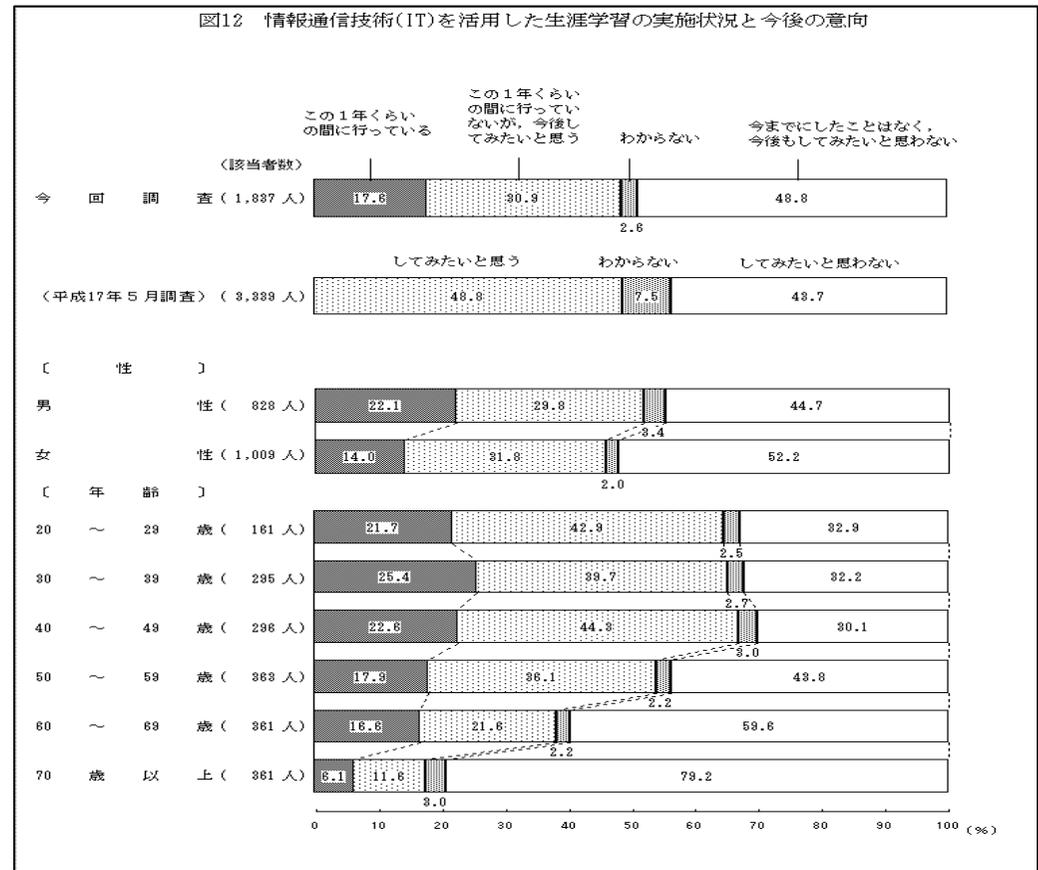
○「インターネットの利用」行動者率

表-1 「インターネットの利用」行動者率  
(平成18年, 13年)  
(単位 %)

	総数		
	男	女	
平成18年	61.6	64.6	58.9
13年	53.7	59.1	49.0
18年(全国)	59.1	62.6	55.8
	有業		
	男	女	
平成18年	70.4	71.0	69.5
13年	59.8	63.4	55.0
18年(全国)	68.1	68.9	67.1
	無業		
	男	女	
平成18年	47.5	47.9	47.3
13年	44.5	47.2	43.2
18年(全国)	43.7	43.8	43.6

注) 携帯電話, PHSなどを使用し, 利用する場合を含む。  
平成13年は仕事や学業での利用を含む。

○情報通信技術 (IT) を活用した生涯学習の実施状況と今後の動向



資料：市統計課「社会生活基本調査の独自集計」

資料：内閣府「生涯学習に関する世論調査」(平成20年)



## ◆客観データ

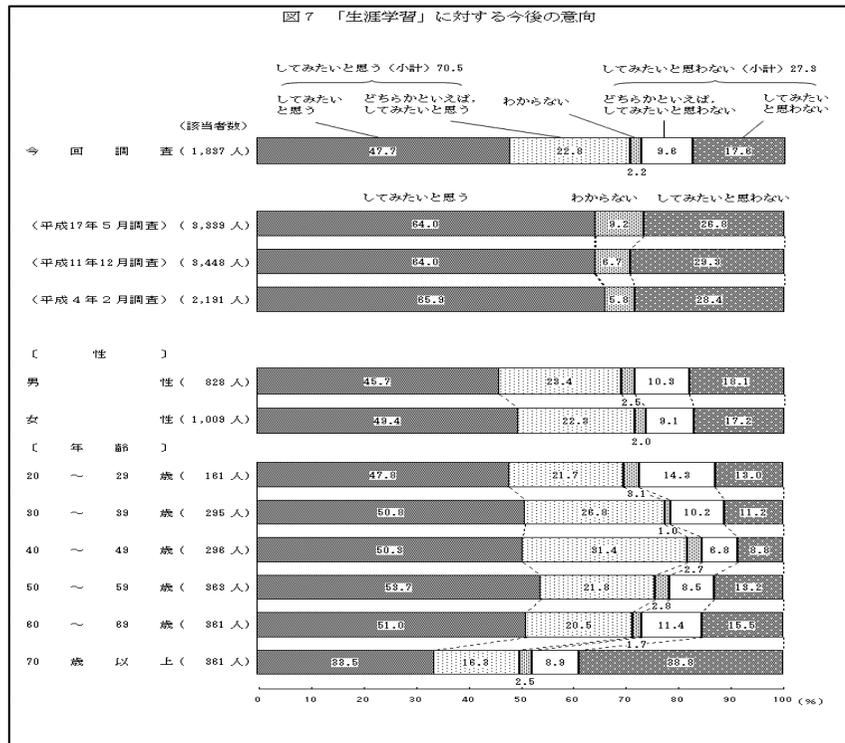
弱み

### ➤ より多くの市民の生涯学習の場への参加促進

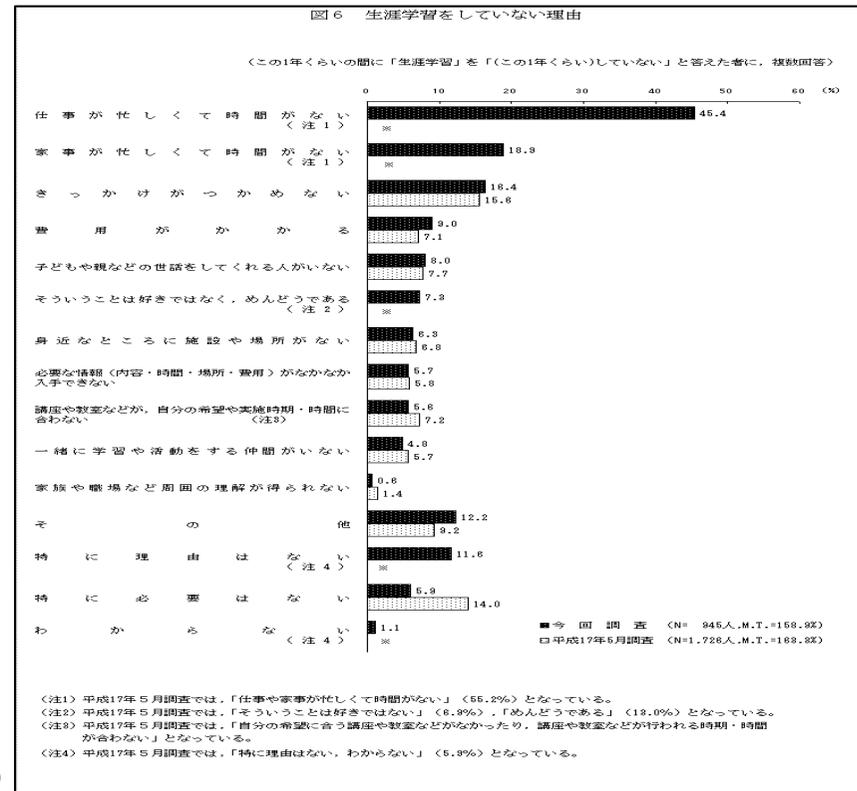
#### ○生涯学習施設への入館者数の推移

	18年度	19年度	20年度
京都市図書館（全館）	3,640,172人	3,648,401人	4,085,513人
京都アスニー（山科を含む）	643,360人	653,368人	666,474人

#### ○生涯学習に対する今後の意向



#### ○生涯学習をしていない理由



資料：内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成20年）



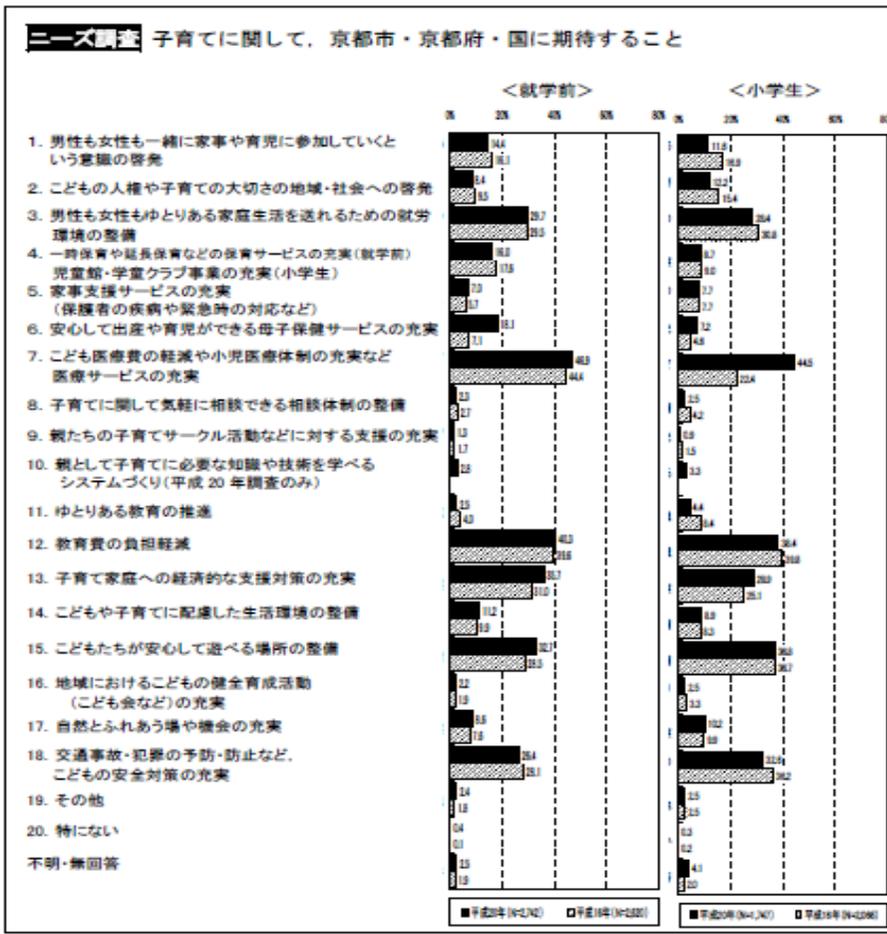
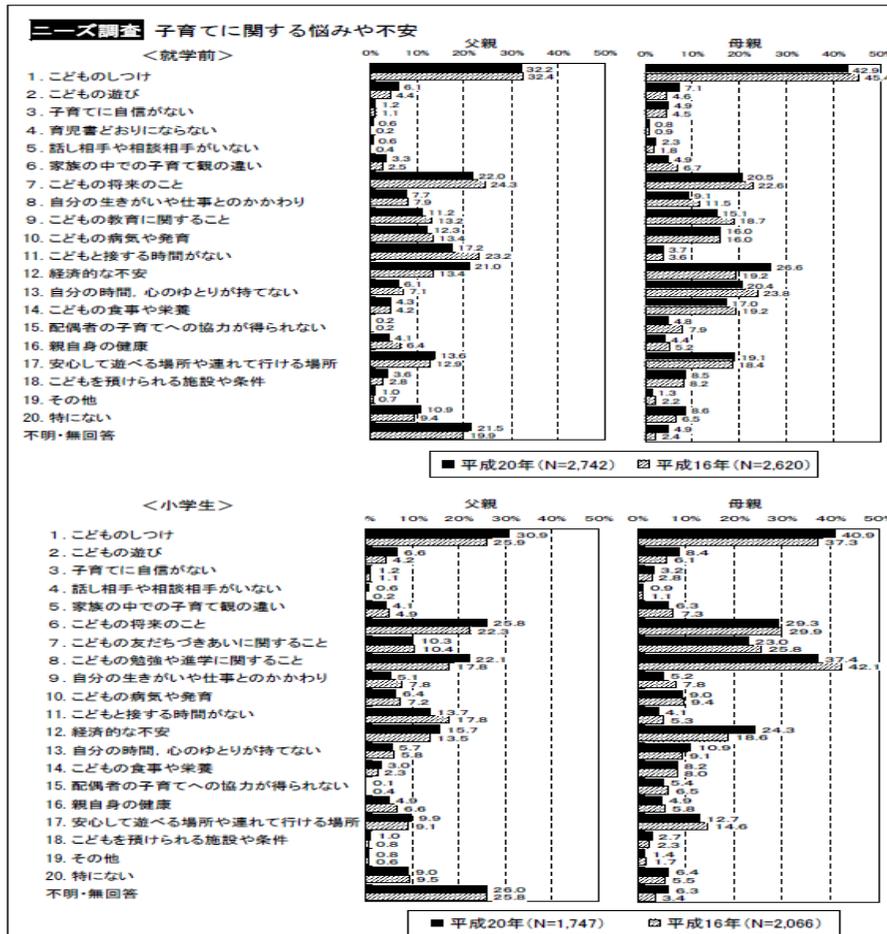
# ◆客観データ

弱み

## ➤ 親に対する子育て支援（親支援）の充実

○子育てに関する悩みや不安

○子育てに関して、京都市・京都府・国に期待すること



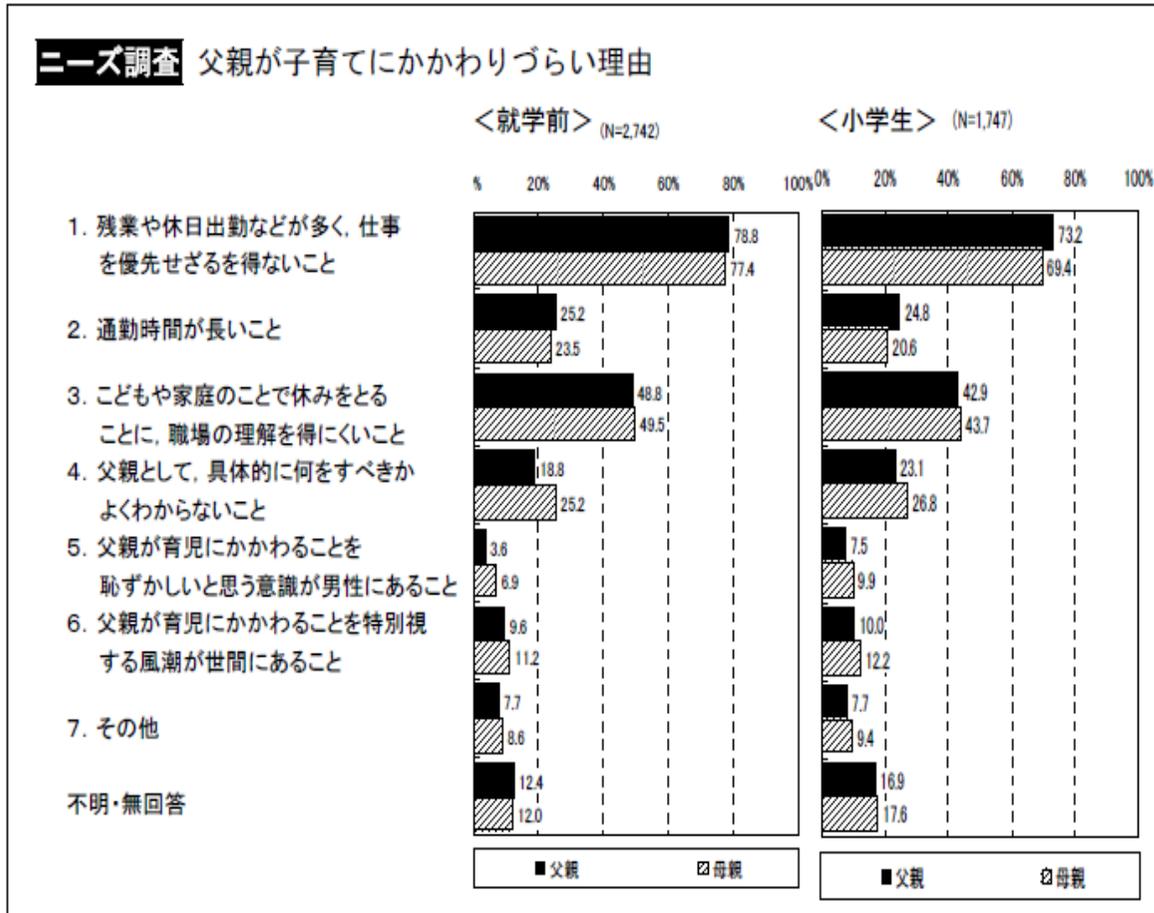


## ◆客観データ

弱み

### ➤ 父親の子育て参加に向けた企業等での取組

#### ○ 父親が子育てにかかわりづらい理由



資料：市保健福祉局「京都市子育て支援に関する市民ニーズ調査」（平成20年）



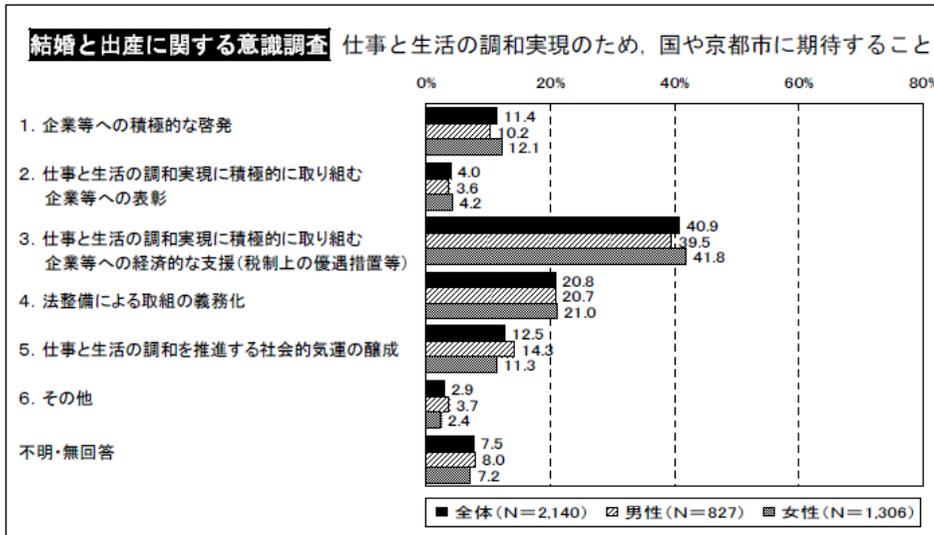
## ◆客観データ

弱み

### ➤ 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）

○仕事と生活の調和実現のため、国や京都市に期待すること

○仕事と生活の調和実現のため、国や京都市に期待すること



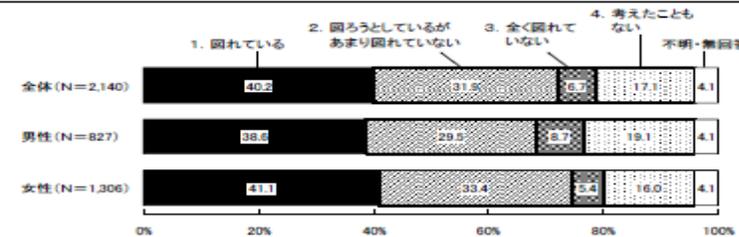
資料：市保健福祉局「京都市結婚と出産に関する意識調査」  
(平成20年)

### 5 仕事と生活の調和の推進（ワークライフバランス）について

問 28 あなたご自身やご家族は仕事と生活の調和が図れていると思いますか。

仕事と生活の調和が「1. 図れている」と回答した方が40.2%。一方「2. 図ろうとしているがあまり図れていない」が31.9%、「3. 全く図れていない」が6.7%となっており、「4. 考えたこともない」と回答した方も17.1%あった。

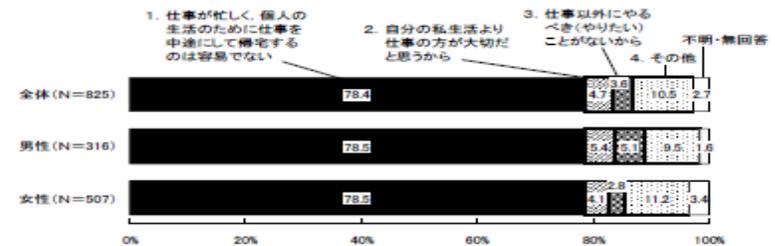
性別による大きな差はみられない。



問 28-1 問 28 で「2」または「3」を選ばれた方におうかがいします。図れていない理由は何ですか。

仕事と生活との調和を図ろうとしているがあまり図れていない。全く図れていないと回答した方に、その理由を聞いたところ、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない」と回答した方が78.4%と大半を占めている。

性別による大きな差はみられない。



※問 28 で「2. 図ろうとしているがあまり図れていない」または「3. 全く図れていない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

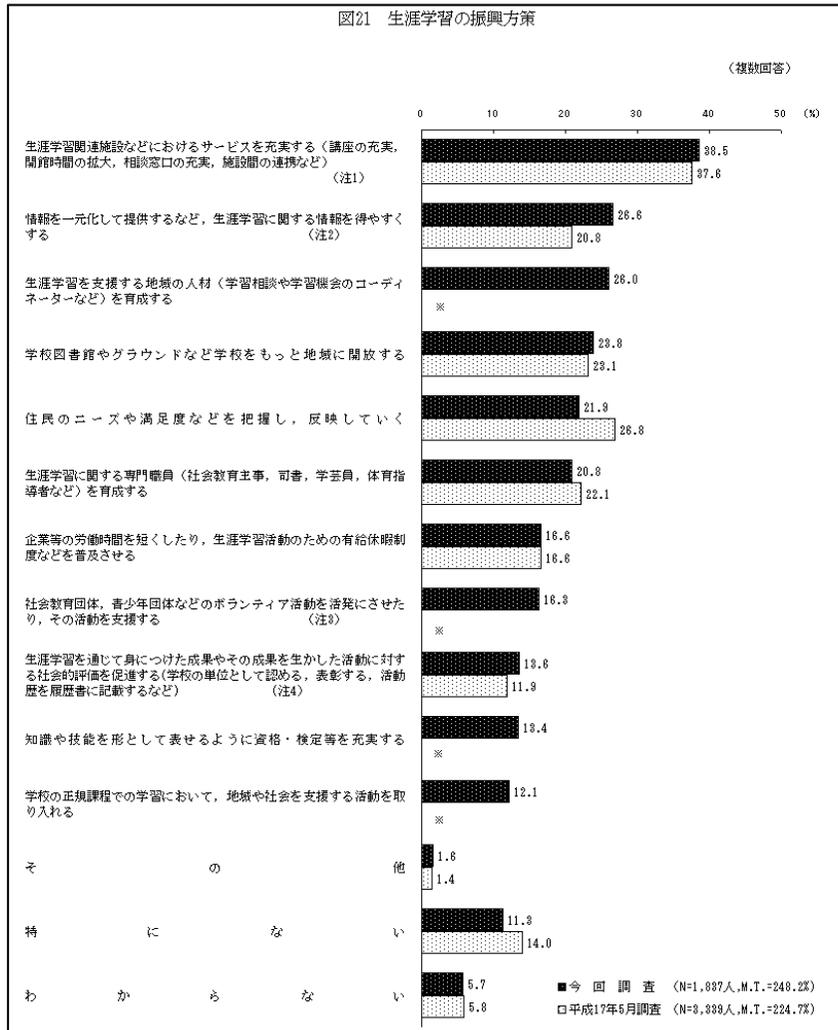


## ◆客観データ

弱み

# ➤ 産・学・官・市民の役割分担の明確化と協働

## ○ 生涯学習の振興方策



(注1) 平成17年5月調査では、「生涯学習関連施設などにおけるサービスを充実する(講座の充実、開館時間の拡大、情報提供や相談窓口の充実など)」となっている。  
 (注2) 平成17年5月調査では、「情報を一元化して提供するなど、現在あるいろいろな施設間との連携をとる」となっている。  
 (注3) 平成17年5月調査では、「ボランティア活動を支援する」(27.6%)、「社会教育団体、青少年団体などの自主的な活動を活発にさせたり、その活動を支援する」(17.1%)となっている。  
 (注4) 平成17年5月調査では、「生涯学習を通じて身につけた成果を評価する(学校の単位として認める、表彰するなど)」となっている。

資料：内閣府「生涯学習に関する世論調査」  
(平成20年)

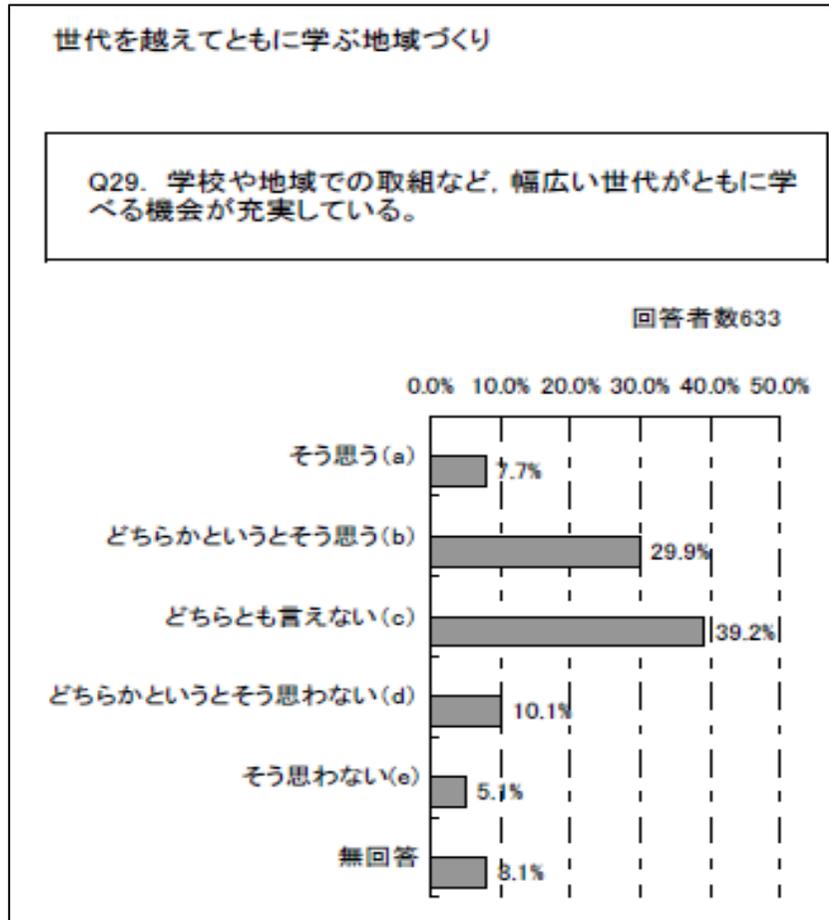


## ◆客観データ

弱み

### ➤ 生涯学習を通じた地域コミュニティの活性化

#### ○ 世代を越えてともに学ぶ地域づくり



資料：資料：市総企局「京都市市民生活実感調査」（平成21年）

#### ○ 学区内の活動を進める上で必要なこと



資料：市市民参加フォーラム「地域活動等に関するアンケート調査」（平成19年）

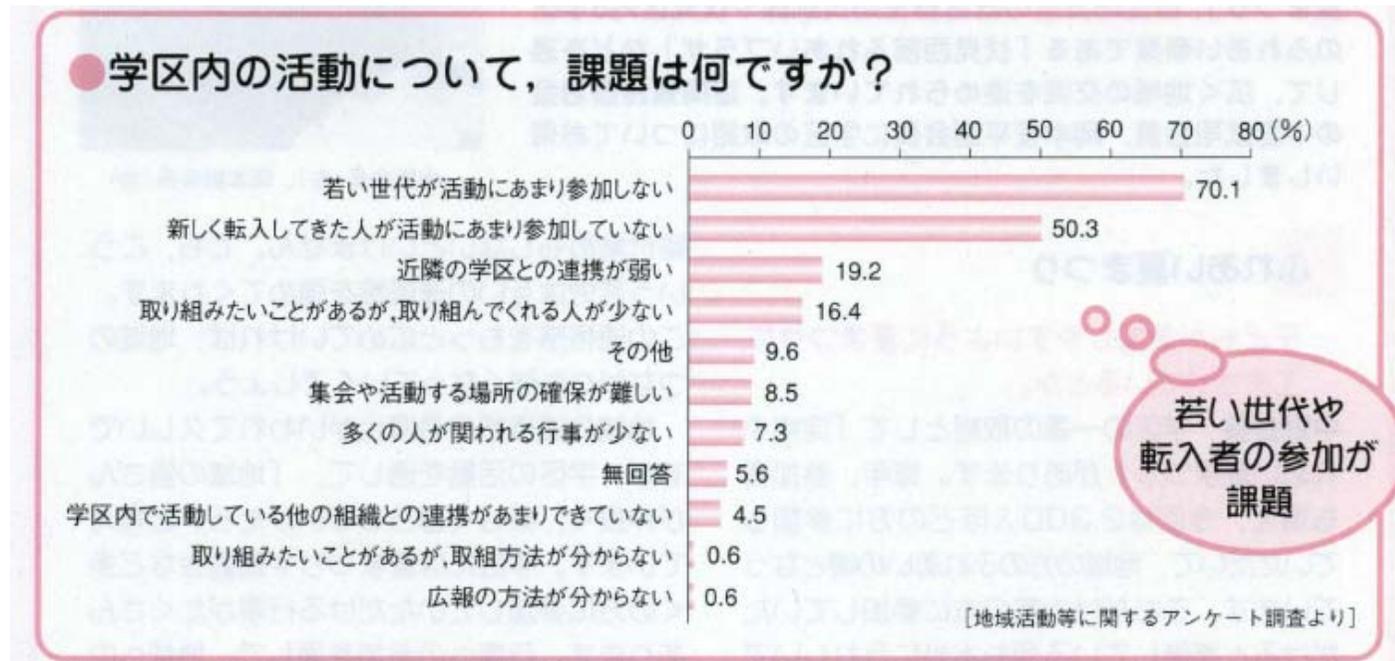


## ◆客観データ

弱み

### ➤ 若者の社会参加

#### ○ 学区内の活動の課題



資料：市民参加フォーラム「地域活動等に関するアンケート調査」（平成19年）

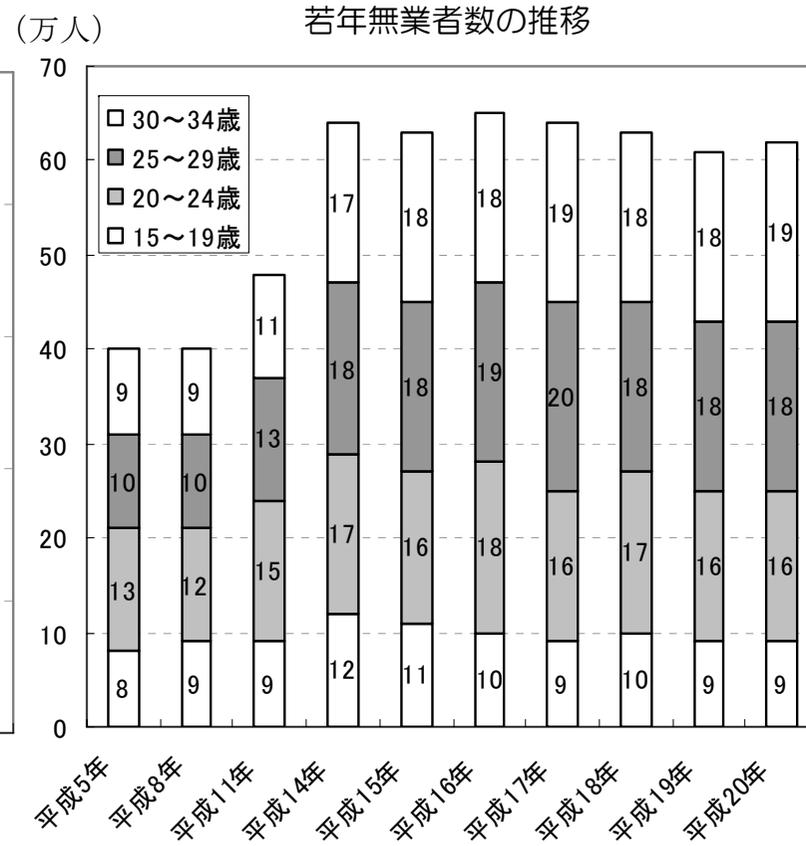
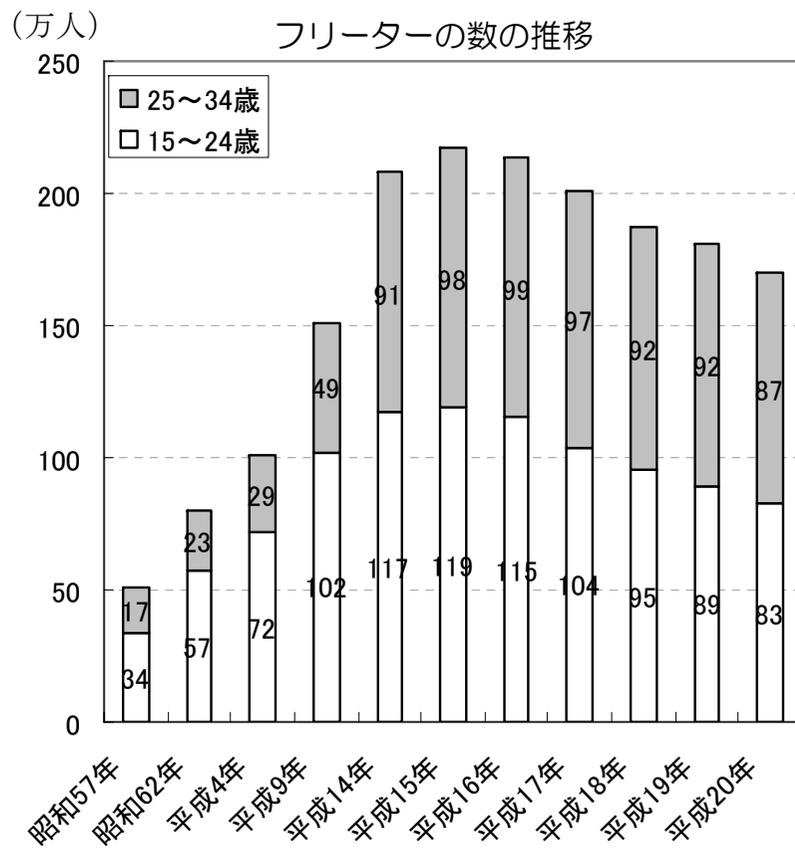


# ◆客観データ

弱み

## ➤ 若者の社会参加

### ○ フリーター数及び若年無業者数の推移



資料：平成21年版厚生労働白書

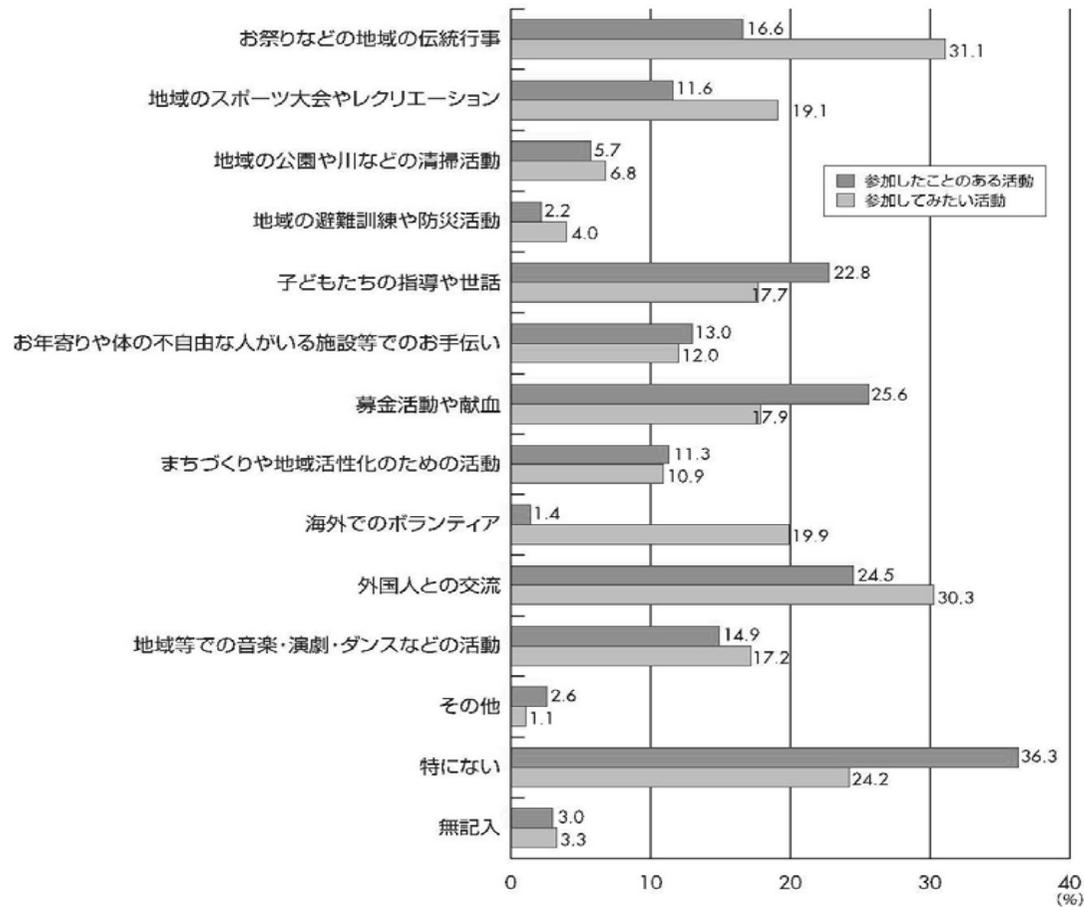


## ◆客観データ

弱み

### ➤ 若者の社会参加

#### ○ 青少年の社会活動参加について

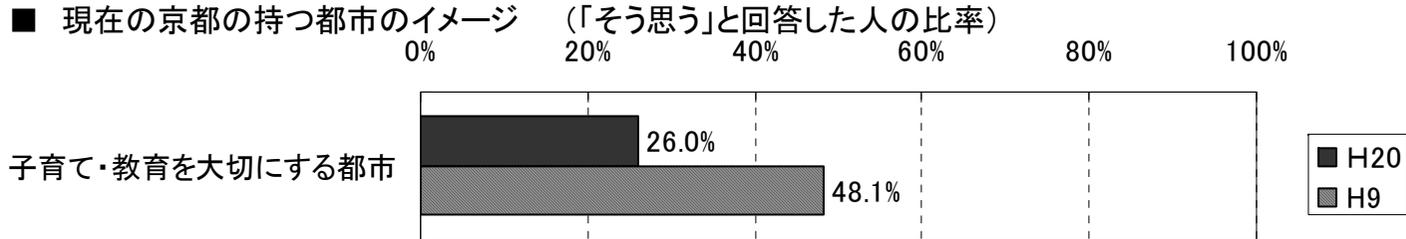


資料：京都市「青少年意識行動調査」（平成17年）



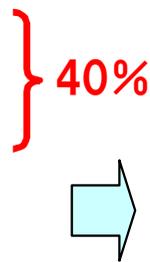
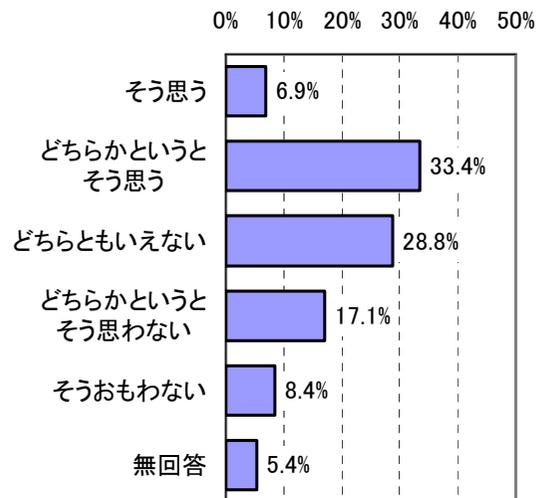
## ◆市民の声

◇京都の都市イメージとして、「子育て・教育を大切にする都市」であると思う人の割合が減少 (1万2千人市民アンケート結果)

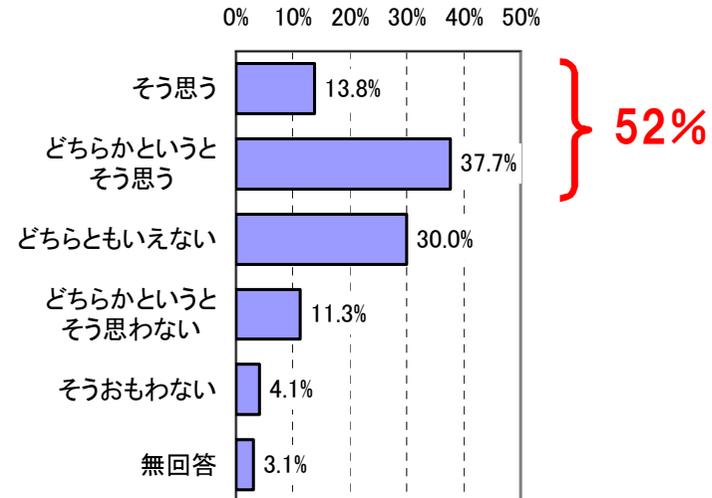


◇「学校と家庭・地域が一体となって子どもたちを見守っている」と思う人が増加 (京都市市民生活実感調査の経年比較)

<平成16年度>



<平成21年度>

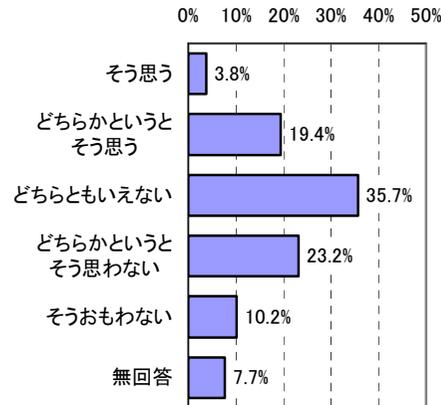




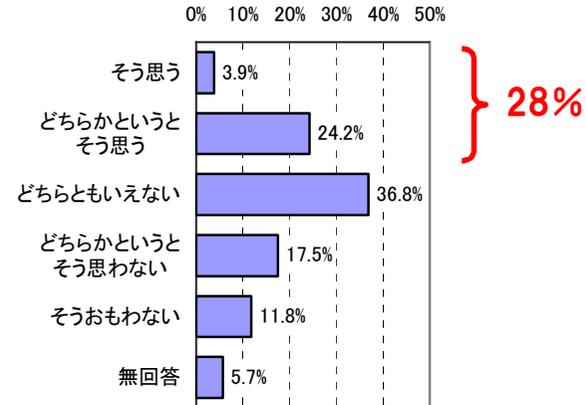
## ◆市民の声

◇「ボランティア活動などで、子どもの社会性が高まっている」と思う人が増加  
(京都市市民生活実感調査の経年比較)

<平成16年度>



<平成21年度>

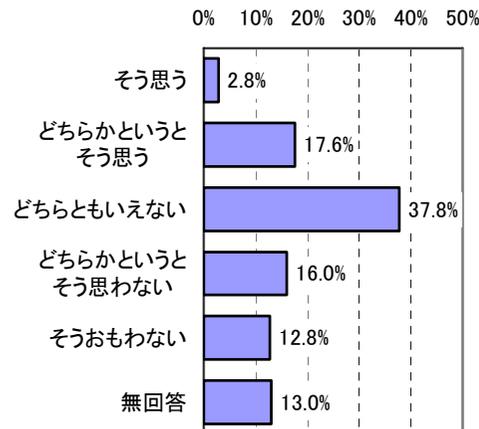


} 23%  
→

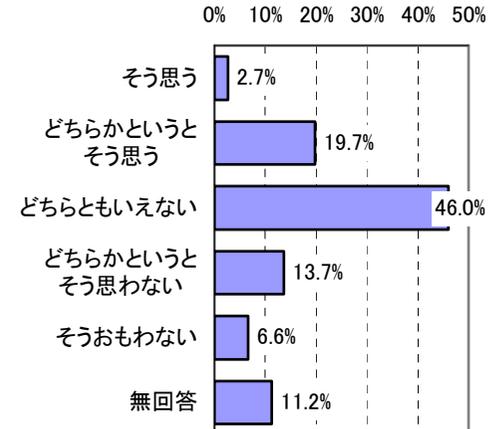
} 28%

◇「子どもたちに対して、時代に合った情報教育ができています」と思う人が増加  
(京都市市民生活実感調査の経年比較)

<平成16年度>



<平成21年度>



} 20%  
→

} 22%



## ◆各区基本計画策定に当たって現時点で出された課題

南区	<ul style="list-style-type: none"><li>・生涯学習活動の場として公共公益施設の利用の促進</li><li>・幅広い世代が共に学べる機会の充実</li></ul>
伏見区	<ul style="list-style-type: none"><li>・より気軽に参加でき、利用者のニーズにも合致した生涯学習の機会の提供や場づくりへの支援</li></ul>



## 3-2 主な分野別計画の概要

名称	京都市生涯学習新世紀プラン“新たな展開”
策定年月	2001（平成13）年度 2007（平成19）年3月見直し
計画期間・目標年次	2001（平成13）年度～2010（平成22）年度
趣旨	<p>市民の生涯学習活動を支援するため、行政の取組を総合的・体系的に推進するとともに、様々な生涯学習関係機関とのネットワークを核とした学習支援の新たな仕組みを提案、構築し、生涯学習を飛躍的に発展させることを目的として「京都市生涯学習新世紀プラン」を策定した。（平成13年3月）</p> <p>当計画の計画期間の中間点を迎え、計画の進捗状況の総合的な点検や評価を行い、計画策定後に新たに生じた社会情勢に対応した生涯学習施策を推進するため、当計画の点検・見直しを行い「京都市生涯学習新世紀プラン“新たな展開”」を策定した。（平成19年3月）</p>
主要施策と実施状況等	<p>○主要施策 「学びの成果が評価される社会の構築に向けた取組の推進」 市民一人ひとりが学んだ成果を適切に評価され、新たな活動への動機付けをするため、学習成果の記録、顕彰・表彰制度を創設・推進する。</p> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・京都市生涯学習パスポート「京まなびパスポート」の配布 平成19年2月から個人が学習目標を立てて学び、その学習成果を記録するための記録帳として希望者に配布。（約15,000部配布済み）</li><li>・生涯学習実践者の表彰 「京まなびパスポート」を活用して、自らの生涯学習を進め、一定数の学びを修得した市民に単位認定書を交付するとともに、優秀者には表彰状を授与している。</li><li>・生涯学習推進者の表彰 平成18年度から、永年にわたり、市民の生涯学習の支援を通じて本市生涯学習の推進に貢献した者を表彰している。毎年度、京都市生涯学習市民フォーラムの総会で表彰状を授与している。（被表彰者数：173名）</li></ul>
ホームページ	<a href="http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000020805.html">http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000020805.html</a>



名称	新・京都市子ども読書活動推進計画
策定年月	2009（平成21）年4月
計画期間・目標年次	2009（平成21）年度～2013(平成25)年
趣旨	<p>平成16年策定の「京都市子ども読書活動推進計画」の計画期間（平成16～20年度）終了に伴い、新たな視点として「家庭読書の定着・習慣化」，「人生を豊かにする本との出会いの機会の創出」，「学校図書館・京都市図書館等，読書環境の一層の整備・充実」を掲げ，平成21年4月に本計画を策定。</p> <p>子どもの読書習慣の定着には，学校・家庭・地域の連携が不可欠であり，子どもの生涯にわたる読書習慣の定着を目指して，関係機関との連携のもと，子どもの読書活動の推進・環境整備に取り組む。</p>
主要施策と実施状況等	<p>○親子で読書が好きになる，絵本・児童書への関心が高まるキャンペーン的取組の実施</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「ノーテレビ・ノーゲームデー」の実施</li><li>・新聞・雑誌も含めた「1日1冊運動」の実施</li><li>・「親子読書」「家庭読書」の実践に向けたPR活動の展開</li></ul> <p>○読書ノートを活用した「めざせ100冊！読書マラソン」運動の充実・推進</p> <p>読書ノートを活用し，年間100冊以上の本を読む子ども20，000人達成を目指す。</p> <p>○京都市図書館所蔵の図書の学校図書館への団体貸出しの一層の促進</p> <p>学校における調べ学習や読書環境の整備に向けて，年間の団体貸出冊数40，000冊を目指す。</p> <p>○学校図書館の充実策の推進・検討</p> <p>学校図書館への巡回指導・相談対応・助言を行う体制の検討や，学校図書館ボランティア養成講座の実施などを行う。</p>
ホームページ	<a href="http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000061715.html">http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000061715.html</a>

### 3-3 融合委員会ワークショップ結果

未来像	重点戦略
○子どもたちに社会的な役割を	・子どもたちに社会的な役割を与える ・観光案内, ごみ分別, 掃除
○京人（みやこびと）が営む	・教育の充実, 「京都人の育成」 ・10年後の京都を担う子どもたちの生活環境を考慮すべき
○京都＝修行ができる 自分が高められる	・修行者ネットワークの創設 ・京都賞の創設・誘致